

# 令和7年度事業報告書

学校法人 都築教育学園

# 事業報告書

## I 法人の概要

### 1 基本情報

#### (1) 法人の名称

学校法人 都築教育学園

#### (2) 住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス等

鹿児島県霧島市国分中央1-10-2

電話番号：0995-45-2010 FAX：0995-47-7759

ホームページアドレス

<https://kagoshima.daiichi-koudai.ac.jp/college-guide/information/>

### 2 建学の精神

創設者のことば「個性を伸ばし、自信をつけさせ、社会に送り出したい。」に示される『個性の伸展による人生練磨』を本学園の建学の精神としている。

これは、創設者の「人間には誰にも、その人でなくてはならない優れた特性、個性がある。これを見つけ、伸ばし育ててゆくのが教育である。」とする以下に示す人間存在と教育に対する信念に基づいている。

○ 天地万有ものみな絶対の真と存在の価値がある。

○ 物は心によって価値を生じ、人は教育によって永遠に輝く。

人間には、生来その人にしかない長所や美点、特質、その人らしさといわれる第一義的個性、仏教で謂うところ「第一義諦＝PARAMA」を有しており、それを教育によって引き出し、永遠に輝かせたいという願いから、校名にも「第一」の名を冠している。

### 3 学校法人の沿革

昭和60年 法人寄附行為変更（法人の名称、学校の名称変更）

都築教育学園

第一工業大学、第一幼児教育短期大学、鹿児島第一高等学校

鹿児島第一幼稚園、第一電子技術学校

平成 8年 鹿児島第一中学校設置

平成11年 札幌デジタル専門学校、札幌デジタル・アート専門学校設置

平成14年 第一リハビリテーション専門学校設置

平成18年 第一電子技術学校廃止、札幌デジタル・アート専門学校廃止

平成19年 鹿児島第一中学校入学定員増（80人を120人に）

第一工業大学の学科名称の変更

（航空工学科を航空宇宙工学科、電子工学科を情報電子システム工

学科、機械工学科を機械システム工学科、土木工学科を社会環境工学科、建築学科を建築デザイン学科)

平成20年 札幌デジタル専門学校を札幌医療福祉デジタル専門学校に名称変更及び医療専門課程の増設

第一リハビリテーション専門学校を鹿児島第一医療リハビリ専門学校に名称変更

平成21年 第一幼児教育短期大学入学定員増認可(50人を100人に)

平成22年 第一工業大学東京上野キャンパス設置(定員100人)及び学科の入学定員・収容定員の変更

平成23年 第一工業大学に航空工学科、自然環境工学科の設置並びに航空宇宙工学科、社会環境工学科の募集停止

平成24年 札幌医療福祉デジタル専門学校を札幌医療リハビリ専門学校に名称変更及び工業専門課程の廃止

平成26年 第一工業大学航空工学科の充実

「パイロットコース」及び「航空整備士コース」の設置

平成27年 第一工業大学の航空宇宙工学科及び社会環境工学科の学科廃止

平成29年 第一幼児教育専門学校設置

平成30年 第一工業大学の航空工学部航空工学科の設置認可(定員60人)

平成31年 第一幼児教育専門学校の募集停止

令和3年 第一幼児教育専門学校廃止

第一工科大学へ名称変更

令和4年 第一工科大学自然環境工学科を環境エネルギー工学科へ名称変更及び入学定員変更(50人を40人に)

情報電子システム工学科入学定員変更(定員150人を170人に)。建築デザイン学科入学定員変更(50人を40人に)

札幌医療リハビリ専門学校夜間部募集停止

令和5年 鹿児島第一医療リハビリ専門学校の入学定員変更(柔道整復学科20人を30人に)

札幌医療リハビリ専門学校入学定員変更(105人を65人に)

令和6年 第一工科大学航空工学科定員の変更(60名を40名に)情報システム工学科を情報・AI・データサイエンス学科への名称変更及び定員の変更(170名を190名に)。環境エネルギー工学科を環境エンジニアリング学科への名称変更及び定員の変更(40名を45名に)。機械システム工学科定員の変更(50名を40名に)。建築デザイン学科定員の変更(40名を45名に)

令和7年 札幌医療リハビリ専門作業療法学科の夜間部の廃止

#### 4 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘 要
第一工科大学	令和6年度	工学部 情報・AI・データサイエンス 学科 機械システム工学科 環境エンジニアリング学科 建築デザイン学科	
	平成31年度 (令和元年度)	航空工学部 航空工学科	
第一幼児教育短期大学	昭和42年度	幼児教育科	
鹿児島第一高等学校	昭和38年度	全日制課程	
鹿児島第一中学校	平成8年度		
鹿児島第一幼稚園	昭和46年度		
鹿児島第一医療 リハビリ専門学校	平成14年度	医療専門課程	
札幌医療リハビリ 専門学校	平成11年度	医療専門課程	

## 5 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和7年5月1日現在)

学校	学科等	入学定員	入学者数	収容定員	現員数	
第一工大	航空工学部	40	46	200	158	
	工学部	情 報	190	192	720	682
		機 械	40	33	180	106
		環 境	45	50	170	168
		建 築	45	36	170	168
		小 計	320	311	1,240	1,124
計	360	357	1,440	1,282		
幼児短大	幼児教育	100	91	200	161	
第一高校	普通科	160	67	480	204	
第一中学		120	73	360	174	
幼稚園		-	47	165	156	
第一リハ	理学療法	40	24	120	73	
	作業療法	40	18	120	59	
	言語聴覚	30	23	90	59	
	柔道整復	30	28	90	80	
	はり・きゅう	15	18	45	40	
	小 計	155	111	465	311	

札幌医療	理学（昼）	40	30	120	100
	理学（夜）	募集停止	—	20	12
	作業（昼）	25	17	75	45
	小 計	65	47	255	157
合 計		1,010	793	3,365	2,445

## 6 収容定員充足率

（毎年度5月1日現在）

学校名	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
第一工大	83.5%	85.8%	85.7%	86.0%	89.0%
幼児短大	85.0%	80.5%	66.5%	70.0%	80.5%
第一高校	41.5%	46.9%	47.9%	45.8%	42.5%
第一中学	50.8%	44.4%	44.7%	43.6%	48.3%
幼稚園	79.4%	92.7%	100.0%	97.0%	94.5%
第一リハ	73.0%	88.3%	84.3%	74.5%	66.9%
札幌リハ	42.0%	38.8%	59.7%	71.4%	73.0%

## 7 役員の概要

（令和7年5月1日現在）

定員数 理事 5～7名、監事 2名

現員数 理事 5名、監事 2名

区 分	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤の別	業務執行・非業務執行の別	主な現職等
理事長	都築美紀枝	平成14年8月8日	常 勤	業務執行	第一幼児教育短期大学学長
理 事	都築明寿香	令和2年7月1日	非常勤	業務執行	第一工科大学学長
理 事	有吉 泰三	令和6年2月11日	常 勤	業務執行	法人事務局長
理 事	田中 淳	令和6年2月11日	非常勤	業務執行	聖マリア病院医師
理 事	吉田 哲也	令和6年2月11日	非常勤	業務執行	(株)タワラヤ社長
監 事	前平 裕敏	令和6年2月11日	非常勤	非業務執行	税理士
監 事	竹山 和巳	令和6年2月11日	非常勤	非業務執行	(有)いでゆ台配湯代表取締役

## 8 評議員の概要

（令和7年5月1日現在）

定員数 11～15名

現員数 11名

氏名	就任年月	主な現職等
都築 美紀枝	平成14年7月1日	第一幼児教育短期大学学長（理事長）
有吉 泰三	令和6年2月11日	都築教育学園法人事務局長
岩元 慎一	令和6年2月11日	第一工科大学特任教授
前田 敦郎	令和6年2月11日	（株）前田産業専務取締役
郡山 陽子	令和6年2月11日	都築教育学園法人事務局
都築 仁子	令和6年2月11日	（財）日本文明研究所理事長
都築 明寿香	令和6年7月1日	第一工科大学学長
田中 淳	令和6年2月11日	聖マリア病院医師
吉田 哲也	令和6年2月11日	株式会社タワラヤ社長
田平 裕隆	令和6年2月11日	エース印刷（株）代表取締役
椿 信二	令和6年2月11日	浄土真宗本願寺菩提寺住職

## 9 教職員の概要

（令和7年5月1日現在）（単位：人）

区分	本務・兼務別の人数			均年齢
	教育職員	事務職員	計	
法人事務局	0	本務：14	本務：14	58.4
第一工大	本務：70 兼務：31	本務：44	本務：114 兼務：31	51.0
幼児短大	本務：12 兼務：10	本務：4 兼務：1	本務：16 兼務：11	53.1
高校	本務：18 兼務：0	本務：11 兼務：0	本務：29 兼務：0	49.8
第一中学	本務：13 兼務：0	本務：1 兼務：0	本務：14 兼務：0	42.4
幼稚園	本務：10 兼務：9	本務：1 兼務：0	本務：11 兼務：10	37.4
第一リハ	本務：31 兼務：49	本務：5	本務：36 兼務：49	47.3
札幌リハ	本務：14 兼務：26	本務：7	本務：21 兼務：26	52.0

## 10 その他

系列校の状況

学校法人	学校数
都築学園	大学3、大学校1、高校2、幼稚園2、幼稚園・保育園2、専門学

	校 5
都築育英学園	大学院 1、大学 1、短大 1、中高学部 1、小学部 1、幼稚園・保育園 1
都築第一学園	大学 1、幼稚園・保育園 1
都築科学学園	専門学校 1

## II 事業の概要

### 1 主な教育・研究の概要

#### (1) 第一工科大学

教職員全員が協働し、「教育」、「研究」、「社会活動」の全ての分野において着実な成果を上げられる環境を整え、特に、以下に掲げる事項について教職員一丸となって重視した。

- ・ I C T教育及び研究活動の充実
- ・ 鹿児島中央キャンパスの教育研究拠点としての機能強化
- ・ 学生募集の積極的展開、オープンキャンパスの魅力化の推進
- ・ 就職に強い大学としての体制の維持・強化
- ・ オンライン教材を活用した教育効果向上施策の推進と教員研究活動等の情報発信強化（動画配信の推進）
- ・ 地域社会に貢献する大学としての機能強化、高大連携、大学間連携の推進

3つのポリシーの教育内容については、各分野において必要とされる専門的知識及び技術を体系的に修得させるとともに、理論と実践を有機的に結び付けた教師句を実施し、ものづくり及び技術開発に貢献できる能力の育成を図った。

特定の専門分野に限定されない幅広い工学的知識及び関連分野の知識を修得させるため、学科横断的な教育を実施し、複合的な視点を持つ技術者の育成に努めた。

#### (2) 第一幼児教育短期大学

本学は、養成校として多様な社会の要請に対処できるような専門的な資質を備えた保育者を育成するため、次の三つの教育目標を掲げている。

- 子ども、保護者等との信頼関係を構築できる保育者の育成
- 保育技術・知識および創造力を有した保育者の育成
- 在学中に身に付けた学問・専門・技術を社会に出て実践し、生涯にわたり練磨続けていける保育者の育成

上記の教育目標と3つのポリシーのもと、保育現場で即実践応用できる内容を実践的に学べる科目として、令和3年度より「幼児教育研究会」を立ち上げている。それ以降毎年「幼児教育研究会」の内容を発展させ、12月のこどもフ

フェスティバルという一般参加型の学校行事を開催し、附属幼稚園をはじめとした地域の子どもたちを招待しており、本学の教育活動を周知した。

また、令和4年度より Teams を導入したことで、教職員間でのスムーズな情報共有が可能となり、チャット機能の活用や授業での使用により、学生とのコミュニケーションが取りやすくなり、意識調査なども即座に行えるようになった。

### (3) 鹿児島第一中学校・高等学校

#### ア 「卒業の認定に関する方針」

鹿児島第一高等学校は「個性の伸展による人生練磨」という建学の精神に基づき、次の能力を身に付け、所定の単位を修得した者に卒業を認定した。

(ア) 社会に貢献するために必要な幅広い教養と基本的な知識

(イ) 基本的な知識・技能に基づいた論理的思考力、判断力、表現力

(ウ) 豊かな人間性と倫理観を身に付け、多様な人々と主体的にコミュニケーションをとることができる能力

(鹿児島第一中学校は義務教育であるため、特に規程はない。)

#### イ 「教育課程の編成及び実施に関する方針」

ア項の方針に掲げる能力を備えた人材を育成するために、次に示す方針に基づき、初年次から卒業まで系統性のある教育課程を編成のうえ、教育活動を行った。鹿児島第一中学校では全員共通の教育課程で教育を展開した。鹿児島第一高等学校では1年次までは全員共通の教育課程、2年次から文系、理系、特進(理)の教育課程を分けて、ICT機器等を活用した教育を展開した。

(ア) 幅広い教養と文系・理系の各大学受験に必要な基本的な知識及びこれらに基づいた論理的思考力や表現力を育むための教科を配置した。

(イ) アクティブ・ラーニングの推進を通して、生徒が主体的に問題に取り組むことを支援する教育を展開した。

(ウ) 大学・短大・専門学校、地域及び国際社会における多様な人々とのコミュニケーションを重視した教育を展開した。

(エ) 人、自然、文化の多様性に見られる鹿児島や学園グループ特有の資源を活用した教育を今後、展開する。

#### ウ 「入学者の受け入れに関する方針」

鹿児島第一中学・高等学校は「個性の伸展による人生練磨」という建学の精神に基づき、次のような生徒の入学を求めた。

(ア) 難関大学等への進学を目指し、学業に一生懸命取り組む意欲のある者

(イ) 英語によるコミュニケーション能力を高めることに、強い関心と意欲のある者

(ウ) 学業をおろそかにせず、部活動や生徒会活動及び学校行事等に積極的に取り組む意欲のある者

### (4) 鹿児島第一幼稚園

幼児の主体的な活動としての遊びの重要性を念頭に置きながら、一人ひとりの個性や良い特性を伸ばすことを心がけるとともに、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られるよう環境を工夫し、周囲の人とかかわりながら遊びや活

動に取り組めるように配慮するなど、幼児期にふさわしい生活が展開されるような幼児教育を目指している。

園児と第一幼児教育短期大学の学生と園児が触れ合う機会を数多く設定し、短大と短大の附属である本園双方の教育が充実発展するような取り組みの継続に努めた。

#### (5) 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

医療・リハビリテーション分野における有為な人材を育成することを主眼とし、次のとおり、3つのポリシーを確立し学生の選抜から卒業まで一貫し教育を行った。

##### ア アドミッション・ポリシー

鹿児島第一医療リハビリ専門学校では、建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を理解し、将来の医療人を目指す高い志を持ち、何事にも努力を惜しまず、地域社会と人々の健康と福祉のために医療・リハビリ分野で貢献・活躍が期待できる人材を求める。

- (ア) 人と関わることに強い関心を持ち、思いやりを持って接する豊かな人間性を有する人
- (イ) 協調性があり、他者との信頼関係を築ける基本的なコミュニケーション能力を有する人
- (ウ) 何事にもチャレンジする向上心、目標の達成に向けて自身を高めようとする強い精神力を有する人
- (エ) 入学学科の修学に積極的に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を有する人

##### イ カリキュラム・ポリシー

医療・リハビリの専門職として必要な知識及び技能とともに、医療人として相応しい人間性を兼ね備えた人材の育成に主眼をおき、履修科目ごと到達目標を明確化したカリキュラムを編成する。

- (ア) 医療・リハビリの専門職に求められる、専門知識・技能の習得を目指し各学科における基礎分野・専門基礎分野・専門分野の科目配置を行う。
- (イ) 医療人として相応しい豊かな人間性や倫理観、諸問題に柔軟に対応できる思考力と判断力を養うための科目配置を行う。
- (ウ) 医療現場における多職種と連携したチーム医療を実践するため、多くの能動的学習法を取り入れ、より臨床に近い教育を行う。

##### ウ ディプロマ・ポリシー

鹿児島第一医療リハビリ専門学校では、各学科の到達目標に沿って設定した授業科目を履修し、基準となる単位を取得、国家試験合格に達する知識や技能、及び医療人として相応しい人間性を有するものに学位（専門士）を授

与する。

- (ア) 医療・リハビリの専門職として、地域社会ならびに人々の健康と福祉に貢献できる能力を有している。
- (イ) 医療人として相応しい人間性、医療・リハビリの各分野における専門的な知識や技能を有している。
- (ウ) チーム医療に求められるコミュニケーション能力、他の職種と協力して諸問題を解決する協調性を有している。

#### (6) 札幌医療リハビリ専門学校

ア 本校は、理学療法士作業療法士養成施設として、令和7年度末に第16期卒業生として60名を社会に送り出した。

イ 教育体制面においては、令和2年度から理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（以下「指定規則」という。）が施行され、1・2年生は新カリキュラム体制及び夜間部は新カリキュラム及び4年制での教育を実施した。また、大学や短期大学同様、本校においても3つのポリシー（卒業認定の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）で体系的組織的教育活動に準拠した教育運営を実施した。

##### (ア) 卒業認定の方針

###### a 理学療法学科（昼間部・夜間部共通）

学納金を納入し、所定の全単位を取得するとともに、卒業試験に合格した者で、以下の資質（素養）を有する者に対し、理学療法学科（昼間部・夜間部）の課程の修了、卒業を認定する。

###### ①（倫理観）

あらゆる人々の健康で自立した生活の実現に貢献することを、高い倫理観をもって支援し続ける力を有する人

###### ②（知識・技術）

理学療法士として生涯にわたり、誠実に自らの専門的知識・技術の向上と医療・福祉の発展に尽力できる人

###### ③（責任感・信頼関係）

チームの一員として、リハビリテーションの現場で専門職としての責任を持ち、多職種と連携し、信頼関係の構築、協働する力を有する人

###### ④（社会性）

社会を構成する一員として、自らの健康を保ち、自覚を持ち豊かな人間性を育むことができる人

###### ⑤（社会貢献）

社会の状況を敏感にとらえ、自己の専門性を発揮して、地域社会を支えその発展に貢献する意志と能力を有する人

###### b 作業療法学科

学納金を納入し、所定の全単位を取得するとともに、卒業試験に合格した者で、以下の資質（素養）を有する者に対し、作業療法学科の課程の修了、卒業を認定する。

①（倫理観・人間性）

医療専門技術者としての倫理観と人間性、意思疎通能力等を備えて対象者に関わることができる人

②（教養・学術的スキル）

医療専門職として必要な教養や学術的スキルを身につけ、豊かで幅広い視野を持つことができる人

③（技能・学識）

作業療法士として相応しい技能・学識を身につけ、臨床で活用することができる人

④（思考・判断・表現力）

チーム医療の一翼を担う者として相応しい思考・判断・表現力を持ち、問題解決に取り組むことができる人

⑤（主体的な態度と意欲）

常に新しい知識や技術を取り入れ、専門職として主体的に学びを継続しようとする意欲を持つことができる人

(イ) 教育課程編成・実施の方針

札幌医療リハビリ専門学校の教育理念・目的・目標に基づき、卒業認定の方針に示す人材を育成するため、療法士として必要な専門的知識・技能の習得を主目的とした教育課程を編成する。この際、関係省令に基づき、教育科目を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」に区分し、段階的な講義及び演習に実習を交えながら教育を実施する。

(ウ) 入学者受入れの方針

札幌医療リハビリ専門学校の教育理念・目的・目標を達成するため、卒業認定の方針、課程教育の編成及び実施の方針に基づき、医療・福祉分野に興味があり、リハビリテーション分野での活躍を熱望する以下の入学者を求める。

① 本学で学ぶ目的・意識が明確で、理学療法士作業療法士資格取得に強い意志を有する人

② 本学の修学のために必要な基礎学力及び心身の健全性（健康状態等）を有する人

③ 学修意欲旺盛であり、学力向上に努力できる人

④ 他者と積極的に関わり、協力して学修することができる人

⑤ 社会、とりわけ医療・福祉を取り巻く社会に関心を持ち、社会性を身に付けることに努力できる人

ウ 教育施策面においては、学生の知識・技能を向上し、国家試験に合格させるため、国試対策特別講座や課外時間を利用した個別指導のためのゼミなど、各種教育施策を実践した。

令和7年度卒業生の国家試験合格率は、理学療法学科昼夜間部合計93.5%全国平均89.7%を上回り、作業療法学科は3年連続100%全国平均91.2%を上回り、いずれの学科も全国平均を上回る成果とすることが出来た。次年度は全学科が100%合格を達成できるように、今後も指導体制の見直し、分析検討し、次年度の指導強化体制に反映する。

## 2 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

### (1) 教学計画

#### ア 学校の概要（学校の強み弱み、環境分析等）

##### (ア) 第一工科大学

18歳人口の減少や高等教育を取り巻く社会環境の変化により、学生募集環境は一層厳しさを増し、本学は、工学系単科大学としての特色を活かしつつ、教育内容の充実、教育研究体制の強化及び表いくの質の向上を継続的に推進した。

2026年度より、いよいよ鹿児島中央キャンパスが開校する事となる。情報・AI・データサイエンスを軸に新たな教育拠点として環境を整えていき、地域的利点を活かし、定員確保に向けた様々な教育活動と募集広報を行う地盤作りに注力した。

更には、2027年には霧島キャンパスにおいて、新校舎が立ち上がる事も決定しており、より一層、本学が生まれ変わる事の情報発信を行って体制構築に着手した。

##### (イ) 第一幼児教育短期大学

本学の強みは、①幼児教育研究会、②附属幼稚園、③男女共学である。

「幼児教育研究会」では、1年生の初年次教育に取り組み、「導入教育」「基礎教育」「発展教育」を軸として教育活動に取り組んでいる。また将来の保育者として必要となる実践力を身につけるため、手遊びや手作りおもちゃなどの実技指導や保育教材の製作などにも取り組んでいる。令和5年度より1・2年生合同での幼児教育研究会を実施しており、12の研究分野に分かれて活動を実施、4月には「わくわくこどもフェスタ」、12月には「こどもフェスティバル」を行った。

次に、本学には、校舎に併設された「附属幼稚園」がある。鹿児島県内の保育士養成校をみても校舎に併設された附属幼稚園は、本学が唯一であり保育者を目指す学生の教育に優れた環境であり、1年次の観察実習や2年次の教育実習において実習園として活用しているほか、遠足や運動会の

際の行事支援を行ったり、幼児体育や指導法の講義、わくわくこどもフェスタ・こどもフェスティバルなどのイベントや、各幼児教育研究会の活動内において園の子どもたちを招いたり、直接幼稚園に行くなどして実際に子どもたちと触れ合いながら教育を実践している。

また、本学は鹿児島県内唯一の「男女共学」の短期大学として長年にわたり、保育者の養成に携わってきた。長年、男女共同参画社会の課題に取り組んできた教育活動により、これまでに多くの男性が卒業し、保育現場や福祉現場にて活躍している。

今回で卒業生数は約4,900人におよび、地元鹿児島県はもとより南九州各県の認定こども園、幼稚園、保育所及び施設で保育者として次世代を担う子どもたちの保育に携わり高い評価を得ており、就職率は19年連続100%を達成した。

一方、弱みは鹿児島県内の18歳人口の減少に加え、全国的な短期大学進学率の低下（女子生徒の4年制大学進学率の向上）、保育系の学科を志望する学生の減少、特に交通の面で立地が必ずしも良いと言えないことなどが挙げられる。

さらに、保育者養成校であり幼児教育科のみの単科の短期大学であるため、全員で目的に向かい免許資格を取得できる環境である一方、単位不足の学生や保育職自体に興味を失った学生が学業を続けるのが困難である。そのため、学生部、教務部、クラスアドバイザーおよび学修支援センター、障がい学生支援部会が連携し、学生の個々の悩みや困りごとに対応し、退学者を増やさないための学生支援体制を充実させ短大卒業のみを選択した場合の資格取得など、付加価値を創出する努力を継続する。

また、「幼児教育研究会」の充実を図るとともに、附属幼稚園とのさらなる連携を図る。加えて、学習支援センター、障がい者支援部会等をより機能させ、配慮を要する学生への早期支援を実施し、学習等でのつまづきを防止する。

#### (ウ) 鹿児島第一中学校・高等学校

本校は「個性の伸展による人生練磨」という建学の精神を標榜しながら、魅力ある学校づくりという点では、インパクトに欠けるのではとの指摘を学校関係者評価で受け、学校法人都築教育学園本部の指導の下、学校独自の探究活動やPBLプログラムの構築に努めた。

ICT機器及び授業、校務支援システムを用いた連絡体制が構築され、職場のペーパーレス化が進み、集中豪雨や台風、降雪時などの連絡体制が確立し生徒や保護者からも高い評価を得た。

進路指導においては、新たな大学入試制度でも求められる思考力、判断力、表現力を養うため、SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の課題解決を本校教育の中に積極的に取り入れ、中学3年

生を対象に導入講座を実施した。

生徒募集においては、近隣地域の児童生徒数減という逆風の中で募集広報に取り組んだ結果、中学校において目標人数を超える入学者数を得た。生徒や保護者の目線に合った学校の魅力発信を行うため、ホームページの更新やSNS発信・インスタグラム発信の部署を設けるなど校務分掌を見直した。

生徒の様子を即時発信することで本校への注目度を高めていきたい。

教学計画は、教育目標、教育方針、重視事項等を掲げ、概ね計画通りに実施した。進学状況は、鹿大医学部医学科（12年連続）、九州大、大阪大、名古屋大、神戸大、熊本大などの難関国公立大を始め、私立大学では、早稲田、慶應、上智、東京理科、明治、青山学院、立教、同志社、立命館、関西学院、関西などの有名私立大学への合格者を出すことができた。明治、中央、立教、同志社、立命館、関西学院などの有名私立大学への合格者を出すことができた。来年度は、中高一貫校としてのメリットを生かしつつ、大学進学・合格実績が生徒募集に直結することを認識して、進学・合格実績の大幅向上という目標を実現したい。

#### (エ) 鹿児島第一幼稚園

令和7年度についても短期大学附属幼稚園として、短大はもちろん、大学・中高・リハビリ校との連携を充実させた（実習を通じた連携・親子体験講座の実施・外国語および空手の体験活動など）。特に、第一幼児教育短期大学の幼児教育研究会と本園園児のふれあい活動が活発に行われたほか、同短大を訪れた海外の大学生とも積極的に交流を図った。また、保護者の負担軽減と効率的な園運営を目指して導入した。「園支援システム」は、適切に運用されており、園児の出欠管理等において、確実な情報共有が可能となっている。

#### (オ) 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

本校は、南九州唯一の医療とリハビリテーションを兼ね備えた5学科からなる3年制専門学校であり、大学及び4年制専門学校に劣らない国家試験の合格率により、いち早く国家資格を取得し専門職として活躍したいと考える学生の希望に応えている。

医療・リハビリ分野の求人件数から見る人材ニーズは比較的安定しており、卒業生の就職状況については学生の要求をみたしているが、就職の前提となる国家資格の取得状況は厳しくなっている。また、高等教育修学支援新制度などの経済的支援策が、必要不可欠な学生数が多い状態が継続しており、修学支援に全教職員が連携し、学生をサポートした。

学生募集については学科によって入学者数・定員充足率にばらつきがあり、令和8年度入学者は前年比で18名増となったものの、定員充足率は

70%に留まった。来年度も出願者数の増加につながるよう広報媒体を厳選し、さらなる募集強化を図るとともに、担任との面談や外部カウンセラーの活用を通じて退学者の低減を推進する。

(カ) 札幌医療リハビリ専門学校

本校は、理学療法士・作業療法士の国家資格試験を最短3年で受験資格を得ることが出来る養成校として、リカレント教育の重要性が増す中、道内社会人の登用窓口として地域医療に貢献している。特に作業療法学科は専門実践教育訓練給付金の再認定により、社会人入学者の経済的支援を目指した。

令和8年度以降の学生募集に関して、総合型選抜と推薦型選抜を通して、アドミッションポリシーと合致した人材を早期により多く獲得できるようにする。

イ 学部等の改組・募集停止・定員の見直し等

(ア) 第一工科大学

学部の改組、募集停止、定員の見直しは行わない。

(イ) 第一幼児教育短期大学

学部の改組、募集停止、定員の見直しは行わない。

(ウ) 鹿児島第一中学校・高等学校

学部の改組、募集停止、定員の見直しは行わない。

(エ) 鹿児島第一幼稚園

2歳児保育について、家庭での育ちを踏まえた丁寧な関わりに対して保護者の満足度が高く、令和6年度についても年度当初より定員充足の入園があった。

今後の継続的な園児確保につなげるべく、職員の体制および保育環境を整えていきたい。

(オ) 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

学部等の改組、募集停止、定員の見直しは行わない。

(カ) 札幌医療リハビリ専門学校

令和7年度については学部等の改組は行わず、理学療法学科及び作業療法学科の定員充足を図り、令和7年度に高等教育修学支援新制度の機関要件を確認の上、申請し再認定された。

ウ カリキュラム改革・キャリア支援等

(ア) 第一工科大学

a 航空工学科

(a) 航空エンジニアリングでは、航空宇宙技術の基礎から最新技術およ

び航空会社を目指す上で必要となる航空整備技術関連知識を、理論と実験・実践を併用した教育を行うことで、広く産業界で活躍できる技術者等の育成を行った。

- (b) 英語能力の伸展も図るよう、自己研鑽としてTOEIC等の受験を推奨した。更に、産業界で注目されているドローンに関する教育内容を一新し、基礎、操縦資格取得、応用、研究開発等に関する一連の教育を、通年にわたって行う体制を強化した。
- (c) エアラインで整備士を支える間接要員や整備部門スタッフとして安全運航、経営に資する総合的な視野・能力・マインドを有し、航空産業界で活躍できる人材を育成するため、専攻独自の英語教育、エアラインに必須な知識及び技能の教育、資格取得特別講座を従前以上に推し進めるとともに、メーカー・エンジニアやパイロットの視点に立った航空機整備の考え方を培うための新たな教育・訓練を構築した。

#### b 情報・AI・データサイエンス学科

- (a) 鹿児島中央キャンパス開講を見据え、抜本的にカリキュラムの見直しを行った。学科の根幹となる情報系科目を学ぶ「情報・通信」分野、今後の社会変化を見据えてAIやデータサイエンスを学ぶ「AI・データサイエンス」分野、データサイエンティストだけでなくトレーナー人材育成にも注力している「スポーツサイエンス」分野を強化、さらに今後の新たな展開として発展が見込まれる宇宙分野での人材育成を目指す「宇宙データサイエンス」分野において社会の要求に対応できる科目群の準備を行う。
- (b) 文部科学大臣から認定を受けた「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」(MDASH)に必要な科目のほとんどを当学科が担っている。該当科目の履修を容易にするため、オンラインでの授業提供にも取り組んだ。今後も全学的な履修者数増加を目指すと同時に、当学科ではMDASH科目の卒業必修化を試みる予定である。
- (c) これまでの教育研究分野へAI・データサイエンスの導入を推進して教育研究を充実・発展させる。特に、①「PBL型」AI・データサイエンス教育の推進、②ロボットコントロール技術の習得、③Wi-Fi&IoTに関する教育研究の実施の3本柱で学生の教育に取り組み、一般的な知名度のある大企業へ学生を就職させることを目指す。
- (d) 日本政府において推進されている「DX(デジタルトランスフォーメーション)を担える人材の育成」に対応した教育を実践した。

#### c 機械システム工学科

- (a) ロボットの社会実装への対応技術向上を考え、「ものを作る・動かす」の学習機会を増やすために工作実習や機械工学実験に新たなテー

マを付け加えた。先端交通機械工学分野では、「先端自動車特論」と「次世代自動車特論」2講義のシラバスの検討を行った。

- (b) 近年、機械工学においては、エレクトロニクスとの融合が著しく、メカトロニクス技術者の育成の要望が高い。これらの従来技術を基にAI技術を応用した先端技術の開発が急がれ移動・交通分野においては、安全な自動運転技術を装備する自動車の開発が急がれ、ICT、ビッグデータを活用した人工知能、人間の動きを機械に置き換えるロボット技術の革新は目覚ましいものがあるため、これらの現状に鑑み、最先端のメカトロニクス技術を学び機械工学分野や産業界で積極的に活躍できる技術を身につけさせるために、ロボット・メカトロニクス、メカトロ・デザイン、AIロボット、先端交通機械工学分野の教育・研究体制を充実させ、幅広く学生の個性を伸ばす教育の機会を整えた。

#### d 環境エンジニアリング学科

- (a) 社会基盤整備に必要な土木技術及び環境への負荷低減・維持に関する環境技術、資源及びエネルギーに関する再生可能技術を修得させ、幅広い見識や技術を身につけた新時代の土木技術者の育成に取り組んだ
- (b) 学生の「個性」を育てるべく接し、講義内容、教授方法、学習環境の充実を常に図った。学生の長所に気づき積極的に伝え、本人も気付かない優れた面を伝えることができた。
- (c) 基礎的実験装置の経年劣化が顕著である。日々のメンテナンスを厳守しながらも、実験自習や研究遂行に支障がないように機器の修繕や入れ替えができたことはありがたい。そのような環境下で実験実習を学生が主体的に行える環境形成も継続的に整えたい。
- (d) 国家資格等の取得
- ・ 1級土木施工管理技士（学科試験）： 2名合格
  - ・ 2級土木施工管理技士（学科試験）： 10名合格
  - ・ 測量士補： 卒業と同時に申請で取得：43名（卒業生全員）
  - ・ ビオトープ管理士（施工部門）： 2名合格

#### e 建築デザイン学科

- (a) 本学科では、カリキュラムの充実に継続して取り組んでいる。BIM需要に鑑み「VRデザイン分野」を新設している。2022年度に「建築3DCAD」を「建築3D（VR）デザイン演習」と改称の上、講義内容を充実した。「VRデザイン特論」を2023年度に新設、3DプリンターやVRゴーグルの活用等、体感、視覚的訴求を重視した講義

構成、内容の充実を目指している。2024年度には、他学科講義（ドローン工学Ⅰ、ドローン工学Ⅱ、2等無人航空機操縦士免許取得の3科目）の本学科学生修得単位数算入を可能とする科目拡充を実施している。本年度（2025年度）は、専門選択科目の更なる拡充のため、新たに「建築史Ⅱ」、「建築史Ⅲ」、「環境工学Ⅲ」、「建築情報学」、「美術造形概論」、「建築研究作法」の6つの選択科目を新設した。

- (b) 教育の質の向上を目指し、各講義において、課題解決型講義を実施した。
- (c) 設計演習系では、スケッチやエスキス模型の修練を繰り返し、ものづくりの基本を徹底した。工学デザイン基礎系では創造性を高める課題設定を行い主体的に学び・考え・行動する力の育成を目指した。
- (d) 二級建築士等の資格試験合格者輩出を目指している。本年度は二級建築士試験で3名が合格している。
- (e) 卒業設計の指導を徹底し、卒業設計展を昨年に続き霧島市役所で開催した。また、日本建築家協会鹿児島会賞（卒業設計）で1名の受賞者（銅賞）を輩出した。

#### f 共通教育センター

- (a) 入学前学習プログラムの電子化を実施した。従来は入学予定者に対し冊子形式の教材を郵送していたが、これを電子化し、Moodle上にアップロードするとともに受講用アカウントを配布した。さらに、解説動画や確認テストも併せて実施した。加えて、各単元の重要事項を1ページに整理したインフォグラフィックや音声解説を作成し、単元ごとのテスト前にPCブラウザやスマートフォンから学習・演習が可能な教材を整備し、同様にアップロードした。これにより、電子端末を保有する学習者が「いつでも・どこでも」学習できる環境を整備し、事前学習に対する意欲の向上を図った。
- (b) 基礎主要科目である数学・物理・英語において、学力別のクラス分けを実施し、3クラス体制で授業を行った。これにより、よりきめ細かな学習指導を実現した。今後も本体制を維持できるよう計画している。さらに、来年度からは入学者数の増加が見込まれるとともに、鹿児島中央キャンパスの新設が予定されている。そのため、霧島キャンパスでは3クラス、鹿児島中央キャンパスでは2クラスとさらに細かく分け、各クラス内での学力の差を小さくし、クラスの学力に合った講義を実施する計画である。
- (c) 企業への就職が多い中、教員採用試験において、中学校技術で2名、高校工業で2名の現役合格者を輩出した。今後は現状維持にとどまることなく、さらなる合格者数の増加を目指し、指導の充実を図ってい

く。また、昨年度より「高校情報」、今年度より「中学校・高等学校数学」の教員免許が取得可能となり、関連する講義を実施している。情報及び数学分野においても、現役合格者を輩出できるよう指導の強化を図りたい。

- (d) 共通総合教育においては、航空工学部および工学部の全学科の学生が受講可能な MDASH 科目を開講し、その運営支援を実施した。リテラシーレベルおよび基礎・応用レベルの授業は専門教員が担当しているが、課題提出や出席入力の補助、単位修得テストの実施および採点に関する支援を行った。しかしながら、受講者数は依然として少ない状況にあるため、さらなる支援として、MDASH 認定の有用性についての周知を図るとともに、欠席がちな学生への声掛けを行い、受講率の向上に努める。
- (e) 専門科目教育に必要な基礎学力を確実に修得させることを目的とし、学生の学習レベルに応じたクラス分けを実施することで、よりきめ細かな教育を提供した。英語教育においては、「TOEIC IP (Institutional Program) テスト」において「450 点以上を取得する学生を 30 名以上輩出する」ことを目標に指導を行った。その結果、必修科目「Freshman English」の授業において学内で年 10 回の TOEIC 試験を実施し、450 点以上を取得した学生は 40 名に達し、目標を達成した。さらに、英語科目「Freshman English I・II」では、希望者を対象に月 2 回程度の学習会を継続的に実施し、学習意欲の向上を図った。また、数学科目「基礎数学」および「基礎微分積分学」において未履修の学生に対しては、次年度に土曜日開講の補講を実施しフォローを実施した。これらの取り組みは、来年度以降も継続的に実施する予定である。

#### (イ) 第一幼児教育短期大学

- a 本学ではこれまで長年に渡り「入学前教育講座」として入学前の 3 月に、ピアノ個人レッスンと附属幼稚園児とのふれあい体験を対面で行ってきた。入学前に個人レッスンを体験することで、ピアノ習得への不安を解消し、ふれあい体験を通して将来の自分（保育者）をイメージできる場として、多くの新入生が参加していた。コロナ禍以降、令和 2 年度から令和 4 年度は、対面での講座に変えて、ピアノについては、事前の楽譜郵送、動画視聴（音楽基礎講座、本学のカリキュラムについて、初心者カリキュラム選択者用の 3 本）を行った。動画は繰り返し見ることができ、入学前に自分のペースで繰り返し練習ができる。これらの方法で入学後のピアノ習得はコロナ禍においてもスムーズに進むことができた。令和 5 年度より、楽譜郵送、動画視聴に加えて、対面での入学前教育講座（ピアノ個人レッスンと附属幼稚園児

とのふれあい体験)を実施した。令和7年度は56名の新生がピアノ個人レッスンを体験し、ふれあい体験では笑顔で園児と接していた。事後アンケートでもピアノに対する意欲や楽しみ、また目標とする保育者像等、なりたい自分の姿に関する多くの記述がみられた。今後も、入学前教育の充実を図っていく。

b 「幼児教育研究会」

令和3年度から引き続き、「幼児教育研究会」を開講した。高等教育の「導入教育」「基礎教育」「発展教育」の3つを柱として以下の教育を実施した。

(a) 導入教育

初年次教育の要素を取り入れ、仲間づくりのためのレクリエーションや2年生との交流会や保育者養成への導入説明、附属幼稚園園長代理の講話など専門職を目指すための動機づけを行った。

(b) 基礎教育

保育者を目指すための動機づけとして、附属幼稚園で子どもと交流したり、アサガオの種まきや芋の苗植えなどの行事を支援したり、食事や入眠の補助を行った。

(c) 発展教育

「幼児教育研究会」で培った知識や技術、観察実習などから学んだ内容を短大独自プログラム「こどもフェスティバル」において実践できよう企画した。具体的には、フェスティバルの運営や環境整備、各ブースの企画実行を行った。また、調理室での製菓の販売申請を行い、こどもフェスティバルでは焼き菓子販売を行った。

c こどもフェスティバル

幼児教育研究会を中心に保育実践の場として地域の親子を招き、4月にわくわくこどもフェスタ、12月にこどもフェスティバルを開催し参加者からも好評を得ている。

d キャリア支援

(a) キャリア講座

「キャリア講座」を開講し、職業意識の向上、就職試験支援、就職情報の提供及び社会人としての心構え、マナーなどの学習支援を実施した。

このうち、保育園で現在主幹として勤務している卒業生からの保育者として保育現場で役に立つ実践的なアドバイスをはじめ、ホテル京セラ支配人の方からの講話、元キャビンアテンダントの方からの礼法指導等マナー講座など様々な分野の講師を招聘し、好評を得た。また、日置市のこども未来課による講話を行ったところ、市役所等からみた保育現場の状況や、行政の取り組みについて知ることができたと学生

から高い評価を得ることができた。

卒業生や就職先の先生方の他、様々な方面のプロフェッショナルを招く機会を設け、また、内容の充実を図り、学生のキャリア支援を行っていく。

(b) 資格取得支援

保育士資格取得率は97.1%（66名）であり、高い資格取得率を維持している。また、保育・教育、福祉分野への就職率は96.9%（64名）となっており、資格を活用した職業にほとんどの学生が就職している状況であり、資格を活用しない職業も含め全員就職している。

(c) 専門実践教育訓練給付金

厚生労働省が実施している専門実践教育訓練給付金制度について、令和4年度から本学が認定校となっている。社会人への周知を図り、キャリアアップの一助となるように努力していく。

(d) 各種奨学金制度

本学は高等教育修学支援制度の対象校であり、その他、各県の保育士修学支援金制度や生命保険協会の奨学制度など、オープンキャンパス参加の高校生や保護者、また、入学後も適宜学生や保護者に対して周知し利用を促している。過去3年取得率は以下の通りである。

年度	R5年度				R6年度				R7年度				
	1年	2年	合計	割合	1年	2年	合計	割合	1年	2年	合計	割合	
学生数	66	63	129		74	66	140		92	70	162		
日本学生 支援機構	貸与	37	28	65	50.4%	40	36	76	54.3%	47	36	83	51.2%
	給付	10	13	23	17.8%	13	10	23	16.4%	58	28	86	53.1%
保育士修 学資金	鹿児島	22	8	30	23.3%	20	25	45	32.1%	41	21	62	38.3%
	宮崎	2	2	4	3.1%	3	2	5	3.6%	2	3	5	3.1%
生命保険協会		0	0	0.0%		1	1	0.7%		1	1	0.6%	

(ウ) 鹿児島第一中学校・高等学校

カリキュラム改革においては、新学習指導要領（高校は2022年度開始）による授業実施に備え、教育課程を編成した。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究や、ICT機器を活用した学習活動の準備、充実等を図った。

キャリア支援については、中学校は、1学期間中に、3年生を対象に近郊の企業見学（ファナック隼人工場、鹿児島大学等）、2年生を対象に職

場体験学習、1年生を宿泊学習にそれぞれ実施し、鹿児島大学にて進路講演会等、キャリア教育を実施した。

高校は、オープンキャンパスへの低学年からの積極的な参加や、多くの進路講演会を通して将来を見据えた24教育を行った。

(エ) 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

a カリキュラム改革（指定規則改正による施設設備の充実）

理学療法学科及び作業療法学科では、カリキュラム改正後のフォローを確実にし、臨床実習指導者講習への対応を含め、学外での実習先となる病院等の受け入れ態勢の拡充を図っている。理学療法学科と作業療法学科あわせて本年度新たに4件を登録申請した。

言語聴覚学科では令和6年4月の指定規則改正に伴う令和7年度からのカリキュラム改正及び実習関連の教材や機器の購入を行い、新カリキュラムに対応した授業・実習に寄与した。

b キャリア支援

高等教育修学支援新制度への確実な対応では、学生、事務担当者、担任等学科教員間の連絡を密に行い、令和6年度から採用された多子世帯対象の給付の拡大等、制度の周知徹底、各種手続の確認・指導等、対象者が確実に制度を利用できるよう期日の連絡等に万全を期した。

社会人入学生を対象とした教育訓練給付制度では、令和7年度は柔道整復学科が指定講座の再指定を受け、令和8年度社会人入学生は全5学科で制度の対象となった。社会人の入学希望者に対して令和6年10月からの制度の支援拡大等について各種広報媒体による本制度の周知徹底、各種手続の確認・指導等により、対象者が確実に制度を利用できるようハローワークとの連携を行った。

また、各種奨学金等制度の活用では、個々の学生の状況に応じて、本校独自の奨学金制度の利用のほか、各学科と連携して病院等奨学金をはじめ、各種支援制度の利用をサポートした。

(オ) 札幌医療リハビリ専門学校

a カリキュラム改革

3つポリシーを全教職員が再認識し、学生個々の学習成果などを学生アンケート調査などにより確認できた。学生へのフィードバックについては、今後も改善の余地があるため、新カリキュラム導入に伴う新教科について、さらなる教育内容の充実を図る。また、学生の付加価値向上の一環として、令和5年度から日本スポーツリハビリテーション学会認定トレーナー（JSSR）資格を取得できるよう、カリキュラムの改定を行い、令和7年度には23名が受験し全員の認定を行った。

b キャリア支援

例年どおり、1年次から国家試験対策ゼミを行う等、各種教育施策により最大目標である国家試験合格、療法士免許取得を最大限支援している。また臨床の現場で必要とされるケア・コミュニケーションスキルについても1年次から特別授業を開講し、実習時に役立つスキルを習得させている。

学生の就職活動に対しては、担任教員と就職担当者とで連携し、求人情報提供、施設見学、エントリー時の応募書類の書き方及び面接指導等、個別指導により毎年就職希望者の就職率100%を維持している。

専任教員の研修に関しては、指定規則改正により、病院施設での研修を積極的に取り組むように示されたため、教育活動に支障のない範囲において、臨床能力を向上させるための研修を、病院や施設との調整により実施した。

(2) 募集・広報

ア 第一工科大学

「航空パイロット・エンジニアリング」「AI・データサイエンス」「環境エネルギー」の3本柱を主軸とし、第一工科大学の知名度の浸透・定着を拡充するため、募集・広報事業（企画）を精選し、実績等に基づく、確実に効果が期待出来る事業（企画）に限定した募集・広報を実施する。この際、個々の事業（企画）による実績と費用対効果の両面から継続的な事業（企画）の効果検証及び改善を図る。

(ア) I・IIに基づく目標

定員確保目標			
鹿児島キャンパス		入学者数	合計
学 科	航空工学	40名	260名
	情報・AI・データサイエンス	90名	
	機械システム工学	40名	
	環境エンジニアリング	45名	
	建築デザイン	45名	
東京上野キャンパス		入学者数	合計
学 科	留学生	80名	100名
	日本人学生	20名	

※1年次授業料免除比率：10%以下（入学金を含む学納金比率）

(イ) 目標達成のための施策

a 学生募集の強化

3本柱を主軸とし、これに本学を取巻く環境及び工学部の特性を重

視した募集を推進する。この際、募集実績又は各種アンケートの統計による成果を継続的に反映させた。

- (a) 高校訪問は、学生募集における母集団形成を担う基盤的施策であり、量の確保を目的とした重要な取り組みである。本学では、限られた人的・時間的資源の中で最大の効果を上げるため、訪問対象校を明確に設定し、戦略的に訪問を行うことを重視している。具体的には、大規模高校や過去に出願・入学実績のある高校を重点校として位置付けるとともに、工業系高校や県外の工科系高校など、新たな志願者獲得が見込まれる学校への働きかけを行った。
  - (b) オープンキャンパスは、出願や入学に直結する質を高める施策として位置付けられている。本学では、高校訪問等によって接点を持った高校生をオープンキャンパスへ確実に誘導し、来学後の体験を通して志望度を高める役割を担わせている。開催形態については、FES型オープンキャンパスや特別講演、霧島キャンパスと鹿児島中央キャンパスの同時開催、オンライン形式など、多様なニーズに対応できる構成としている。また、学科別のプログラムを充実させることで、学びの内容や特色を具体的に理解できる場を提供した。
  - (c) Web広告は、高校訪問やオープンキャンパスを補完し、認知拡大から出願喚起までを支える重要な手段である。本学では、エリアを限定したジオターゲティング広告を活用し、重点地域の高校生や保護者に対して効率的に情報を届けることを重視している。
  - (d) 女子学生獲得は、近年の課題である女子比率向上に向けた重点施策の一つである。本学では、女子特別奨学制度を有効な強みとして位置づけ、その内容や活用方法を積極的に発信していくことを重視している。高校訪問やオープンキャンパスにおいては、奨学制度の具体的なメリットや実績を丁寧に説明し、経済的な不安を軽減することが重要なポイントとなる。
  - (e) 2026年度に開校予定の鹿児島中央キャンパスを先行的に活用し、オープンキャンパスをはじめとする各種行事を実施した。これらの行事は、出願を検討する高校生に加え、その保護者や高校教職員、地域の方々への認知度向上を目的としている。その一環として、内之浦宇宙空間観測所所長の羽生宏人教授による特別講演を実施した。
- b 中途退学者防止への寄与
- 昨年度入試制度の成果及び問題点等に基づき、今年度の入学試験要項に反映させ、入学者の質の向上を図り、入学以降の中途退学者防止

の一端に寄与する。この際、学生部と連携して、新入生の中途退学率とその要因等に係る情報提供を受ける。

(a) 受験者の資質及び学費金に係る経済的な状況を確認できる面接評価票等への反映を検討する。

(b) 留学生受験者を対象とし、日本語能力を検する試験及び面接評価票等の強化を検討する。

c 経費削減への寄与

各種募集・広報施策における実績と費用対効果の分析に基づく、施策の精選による経費の効率化を図った。

(a) 高校訪問においては、予定する地域と期間又は移動時間を考慮した効率的な訪問を実施し、経費の軽減に努めた。

(b) ガイダンスにおいては、空き時間を高校訪問に充当し、効率的な募集・広報を実施し、経費の軽減に努めた。

(c) 契約企業においては、入学者実績と所要の経費を照合させ、費用対効果を案出して、契約内容の見直し等を行い、経費の効率化を図った。

## イ 第一幼児教育短期大学

### (ア) 実績

令和7年度入学者は定員100名に対し受験者92名、合格者92名、入学辞退者0名、入学者92名であった。

### (イ) 学生募集対策

a 入試広報部を中心に、Web広告やインストリーム広告の刷新、HPの運営、オープンキャンパスの追加実施、広報としてのこどもフェスティバルを行い、地域の親子や高校生を招待した。

- ・ Google 連動型広告や、Instagram 広告を実施している。
- ・ ホームページは広報委員会の教員が更新を行い、また、学生広報部を中心に Instagram を中心とした SNS による情報発信に努めた。

Instagram のフォロワー数は1,000名を超え、最も注目度の高い投稿では14万7000回の視聴回数を記録した。TikTok アカウントでは、最高視聴回数60万回再生を記録した。今後も引き続き、各 SNS の登録者数を増やすため、更新頻度を増やし、学生を巻き込んだの宣伝活動を行っていく。また、本学の全教員がブログ等を更新できるよう研修を行い学校行事や学生の活動を掲載する等リニューアルに努めて広報を行っていく。今後もホームページおよび SNS の充実・強化を図る。

b 各地区担当者の高校訪問のほか、進路ガイダンス（高校：109回、会場：25回）に参加した。ガイダンスに関して、令和5年度と比して実施数、参加生徒数共に増加傾向ではあった。令和7年度の新入生は

92名であったため、効率よく出願に結びつけることに成功したと言える。

- c 各地区の高等学校の教員を対象とした進学説明会を、霧島・鹿屋・奄美の3箇所で開催した。
- d 令和7年度新入生92名のうち、89名がオープンキャンパスに参加している。データ分析からも、オープンキャンパスは、受験との相関関係が強いことが明らかとなっており、広報に対するオープンキャンパスの有効性が確認された。
- e 今年度は、オープンキャンパスの開催回数を7回に増やし、また、12月のこどもフェスティバルを実施した。来年度はさらにオープンキャンパスの質を向上し、出願率アップを目指す。
- f 社会連携センターを中心に、公開講座や生涯学習、リカレント教育講座、ボランティア、研修・講師派遣等を中心に地域との連携を図った。今後も本学の認知拡大を目的とし、活動の充実を図る。
  - ・ 令和6年度より、これまでの本学会場に加え、鹿児島会場（カクイックス交流センター）との二か所で6月から12月にかけて、社会人や親子等を対象にした公開講座を計12講座開催し、参加者は96名であった。受講後のアンケートでは受講者の満足度は非常に高かった。リピーターも増えており、生涯学習、地域貢献活動として定着してきている。
  - ・ 献血活動、霧島こどもセンター子育て支援活動などのボランティアに参加した。霧島こどもセンターは未就園児（親子）の子育て支援の施設である。未就園児と保護者の会話や様子、支援の必要な子どもへの保育士の関わりを直に見ることができ、学生にとって大きな学びとなった。
  - ・ 霧島市および市立の国分中央高校と連携し、本学教員が国分中央高校の生徒に対してのピアノ講座と絵本読み聞かせ講座を行った。高校との連携活動は広報にも繋がるため今後も積極的に実施していく。
  - ・ 本学教員による出前授業では、松陽高等学校（保育の仕事／職業理解）、細山田中学校（スポーツレクリエーション）、曾於地区教職員研修会（こどもの心の育ちを考える～「トラウマ」「愛着の課題」について～）11校で行った。いずれも、生徒や教職員の心に届いた授業・研修会となっていたようだ。今後も積極的に実施していく。
- g 令和4年度は、指定校推薦の導入と建学の精神である「個性の伸展による人生錬磨」に基づく学生の幼児教育・保育に関する個性発掘のため、「ようたんカード」を使用した「ようたん入試」の導入など入試改革を行った。

令和5年度は各入試の特徴、特に指定校推薦と総合型選抜、ようたん入試のメリットを明確にして広報する。

h 出身地域や入試区分によって採用されている現行の奨学金制度の見直し、新たに上述の建学の精神に基づく受験生の個性や将来の保育者幼児教育者としての意欲や適性を有する学生を選考する「ようたん奨学生」制度を設けた。

(ウ) 中途退学者対策

a 令和7年度は7名で、前年度の2名より5名増加となり、退学率は1%から5%へと増加した。学内カウンセラーと学外カウンセラーが連携してエゴグラムやスクリーニングテストを行い、学生の悩みの早期発見に努め、また、「らんらんランチタイム」など学生が気軽に相談ができる場の設置、クラスアドバイザーによる相談体制の強化、幼児教育研究会を1・2年生合同にして先輩後輩の交流を活発にし、また、附属幼稚園の子どもたちとの関わりをこれまで以上に増やしたが多様な学生が入学している現状においては、改善の余地があると考えられる。

次年度は、学内カウンセリング体制を強化するとともに学習支援センターを新設するなど、学生支援に力を入れていく。

b 保護者説明会を4月と保護者連絡会を9月に行い、教職員と保護者との情報共有及連携の機会となっているため、今後も継続的に行っていく。

c 「授業アンケート」、「悩み・いじめ・ハラスメントに関するアンケート」の他、教育内容・環境、学生対応、就職、学生生活などについての「意識調査」など、定期的にアンケート調査を行い、FD活動として学生の満足度向上に努めた。

ウ 鹿児島第一中学校・高等学校

(ア) 募集広報、入試関連行事等は、中高教職員が相互に連携し、教員による学校訪問、学校説明会、中高連絡会等を計画どおり実施した。

(イ) 入学状況（令和8年3月31日現在）

中学校78名、高校94名（外進生・内進生を含む。）

中学校：入学定員 120名（65%）、募集定員 105名（74%）

高校：入学定員 160名（59%）、募集定員 155名（61%）

なお、在籍者数は中学校が195名、高校が218名であった。中学校の収容定員360名に対する収容定員充足率は54%、高校の収容定員490名に対する収容定員充足率は44%となった。

(ウ) 各種説明会と入学者との関係

学校名	説明会累計参加者数	受験者	合格者数	入学者数	入学率	備考
中学校	207名	123名	114名	78名	68.4%	

高 校	201名	247名	232名	49名	21.1%	推薦・専願 含む。
-----	------	------	------	-----	-------	--------------

中学校は、オープンスクールや入試説明（個別）相談会、塾での説明会等へ参加した児童数が、直接受験に繋がり入学する可能性が高い。高校は、説明会等に関係なく受験者がほぼ例年の人数であるが、それが直接入学に繋がらず、公立高校受験との併願が多い。

試験会場は、鹿児島会場を廃止し、始良会場を新設した結果、入試にプラスに働いたので、来年度も継続する。

- (エ) 令和8年度の新1年生が中学78名、高校94名という現状を踏まえ、中高共に定員を下回っていることは、学校運営に関わる重大な危機と捉えなければならぬ。なお、高校は外進生の入学者数が49名と前年度を上回ったが、中高ともに入学定員に対する充足には至らない状況である。しかしながら、広報活動による入学者数は徐々に増加に転じている。今後、入学定員充足を図るべく、原因の分析とともに募集要領の変更、児童・生徒数が多い地域をターゲットにした広報重点地域の特定など受験者数、入学者数がともに増えるような施策を講じることが重要である。

令和8年度は、教育の質の向上という目標を継続しつつ、中学校からの入学生を増やすため、対策は出来ることから進めていき、募集、広報を最優先課題として取り組み、職員会議等を積極的に活用し、問題点を摘出した上で、原因を分析し、その対策を講じ、問題点を解決する。そのために教職員一人一人が危機感をもって、募集、広報を一から見直し、入学生数の増加という成果を得られるよう募集、広報の強化を図り、改善を推進する。この際、施策の一つとして、小学校6年生を対象とした「刈り取る募集」から小学校5・4年生をターゲットとした「育てる募集」を目指す。

#### エ 鹿児島第一幼稚園

未就園児親子教室「レインボーキッズ」を定期的を開催し、園生活の楽しさなどを紹介し、園児募集に努めた。レインボーキッズの講師に第一幼児教育短期大学の講師を招き、専門家による特色あるプログラムを展開しており、保護者の満足度も高い。未就園児親子教室に参加した家庭の満足度が入園受付につながると考え、プログラムの充実とともに、一人ひとりを大切に丁寧で親切なかかわりを目指していきたい。また、ホームページや園の公式インスタグラムを活用して園生活の様子を紹介し、保護者に喜ばれているが、未就園児の家庭や地域の方々においても、本園の教育のあり方を知る機会となっている。

#### オ 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

- (ア) 令和8年度入学者募集広報活動に対する実績

募集定員 155 名に対し 129 名の入学者（充足率 83.2%）となった。

a 理学療法学科（入学者 39 名／募集定員 40 名）

オープンキャンパスの参加者は 102 名で、昨年度と比較し、35 名増であった。

競合となる県外の四年制私立大学への流出を防ぐため、オープンキャンパスを通じて、本校・本学科の魅力や特色（国家試験合格率やスクールバス、学生寮）を十分に PR し、「自宅通学で国家資格を目指す」3 年制の専門学校であることを強調していく。

b 作業療法学科（入学者 25 名／募集定員 40 名）

オープンキャンパス来校者は 60 名で昨年度と比較し、6 名増であった。

「作業療法士という職業の認知向上を図る」ことを目的に、オープンキャンパスの企画として卒業生の在籍する鹿児島市内の病院と連携した病院見学を企画したほか、本校ホームページや学科インスタグラムへの授業や実習風景の投稿を積極的に行ったことで、入学者の微増につながった。

また、オープンキャンパスに在校生をより積極的に登用し、来校者に学校の雰囲気や学科の魅力、作業療法士の仕事の魅力を感じてもらおう工夫をしていく。

c 言語聴覚学科（入学者 28 名／募集定員 30 名）

言語聴覚士を「子どもに関わる仕事」と位置づけて保育・幼児教育分野に関心のある高校生を対象に職業理解に努めた結果、前年度を上回る入学者を獲得できた。県内離島地域の病院や福祉施設では言語聴覚士が在籍しておらず出張で対応することがあるため、学科教員の出張による臨床を通じて、言語聴覚士の仕事と魅力を周知する出前授業などの展開を目指していく。

次年度も継続して学校行事や学生の授業や実習の様子の発信を行い、言語聴覚士の職業理解の推進と認知度向上に努めていく。

d 柔道整復学科（入学者 18 名／募集定員 30 名）

オープンキャンパスの来校者が昨年度と比較し、25 名減となり、今年度の入学者も大幅に減となった。これまで国家試験合格率 100% を維持してきたが、令和 6 年度に 88% に落としたことが大きな要因と考えられる。

高校生向けに「スポーツに関わる仕事」として職業理解を促進し、本校と同様の 3 年制の養成校のない宮崎県や熊本県へ募集地域を拡大し、入学者の増加を図りたい。

一方で、令和 8 年度入学生は社会人入学生が 1 名となった。令和 3 年度から専門実践教育訓練給付制度の指定講座となっており、令和 7 年度卒業生の実績により、令和 8 年度以降の継続も見込めるため、本制度の周知徹底を図る。

e はり・きゅう学科（入学者 19 名／募集定員 15 名）

令和 3 年度より採用した民間資格導入以降、鍼灸師として美容分野への進

路開拓、独立開業権を持つため定年退職がなく長く働ける仕事として高校生に周知したことにより、令和8年度入学生も19名であり、募集定員を大きく上回ることができた。

#### 令和8年度 入学生募集結果

学科名	入学定員	志願者数	入学者数
理学療法学科	40	39	39
作業療法学科	40	26	25
言語聴覚学科	30	29	28
柔道整復学科	30	19	18
はり・きゅう学科	15	19	19
合計	155	132	129

#### (イ) 学生募集対策

##### a 広報媒体の見直し

テレビCMや新聞・雑誌広告等の紙媒体から利用者情報の獲得が可能なWeb媒体、メールからSNSの活用へ広報媒体の転換を図った。より高校生年代が利用しているメディアとしてLINEの活用に注力し、初回接触後も継続してオープンキャンパスや入試情報が提供可能な媒体を活用した。

##### b オープンキャンパスの質的向上

オープンキャンパス来校者の出願率は57%に増加した。

毎月開催するオープンキャンパスにおいて、各学科が行う体験講座の内容が重複しないよう工夫を行ったほか、来校者が申し込みの際に第2希望学科まで申し込めるよう改善し、オープンキャンパス来校者の滞在時間を伸ばす企画の充実を図ることができた。毎回のオープンキャンパスで実施するアンケートに基づき、体験内容等の企画を随時見直していく。

また、主に高校生の保護者や社会人入学希望者を対象に、本校で採用している日本学生支援機構等が行う各種奨学金や社会人入学者が、対象の給付制度について、オープンキャンパスにおいても個別相談会を実施し、情報提供を強化した。特に令和7年度から多子世帯向けの給付拡大等、制度の改正について、オープンキャンパス参加者に対して周知徹底を図った。

##### c 社会人入学者の獲得

令和6年10月付けで理学療法学科と作業療法学科が専門実践教育訓練給付制度の指定講座の再指定を受け、令和7年度入学生も引き続き全5学科で制度の対象とすることができた。また、教育訓練支援給付金が法改正により2年延長されたことを受け、過去のオープンキャンパス参加後に出願に至らなかった参加者にDM発送を行い、制度の周知と出願促進を行った。

#### (ウ) 学生数

令和8年度4月1日現在 在籍数

学科名	1年生	2年生	3年生	合計
理学療法学科	39	24	19	82
作業療法学科	26	17	17	60
言語聴覚学科	28	22	22	72
柔道整復学科	18	26	23	67
はり・きゅう学科	19	19	8	46
合計	130	108	89	327

(エ) 学納金

学納金収入の改善のため、中退防止に努めた。令和7年度、退学・除籍者の合計は8名（前年比16名減）となった。

主な理由としては、学業不振による進路変更が多くを占めた。前・後期末の定期試験前後に退学の件数が増えている。特に後期末の進級判定の際に留年が決まってしまうと高等教育修学支援新制度の適用が受けられなくなることから、経済的な支援の充実も課題である。入学後、3年次の国家試験受験まで知識や技術の修得、実習を通じた専門職としての職業理解を深めていくとともに、「クラス全員で国家試験合格」を目指すため、レクリエーション等の課外活動を通じてクラス内の親睦を深め、資格取得に向けたモチベーションの維持・向上を促していく。

今後、基本的な学習習慣を入学後、早期に確立させるため、早期の入試で合格した入学予定者には入学前教育として課題を課すとともに、入学前体験講義（プレスクール）を行い、入試合格後にも日々の学習を継続させる。各学科から入学予定者への入学前課題の充実を図る。

また、日本学生支援機構が行う給付型奨学金の審査の結果、区分変更等がなされたことにより修学の継続が困難となり、在校生の退学や学納金未納による除籍、入学予定者の辞退があった。奨学金を受ける学生や受験生の保護者に加え、高校在籍時に行う予約採用申込みの手続きや令和7年度からの多子世帯向けの給付拡大等、制度変更について、高校訪問の際に担任や進路指導部にも周知を徹底していく。

令和7年度末 退学・除籍者数

学科名	1年生	2年生	3年生	合計
理学療法学科	2	0	0	2
作業療法学科	0	0	0	0
言語聴覚学科	2	0	0	2
柔道整復学科	4	0	0	4
はり・きゅう学科	0	0	0	0
合計	8	0	0	8

## カ 札幌医療リハビリ専門学校

### (ア) 学生募集実績(令和8年度入学者数)

a 理学療法学科昼間部：43名(定員40名)

b 作業療法学科昼間部：17名(定員25名)

入学者数は定員65名の92.3%の60名で、目標である65名を5名下回る結果となった。主因としてOC参加者の不足、社会人出願者の不足が考えられる。来年度は上記原因を改善しPT40名、OT25名出願による定員充足を目指す。

### (イ) 総合型選抜制度の推進

高校生の受験早期化に対応するため、AO入試に代わり総合型選抜制度を導入し、前年度入学者は28名であったが、今年度は総合型選抜入学者41名と改善した。

### (ウ) オープンキャンパス

通常開催は前年度30回から今年度20回に削減したが、参加者は前年度199名から今年度218名と微増した。学生スタッフと密にコミュニケーションを取り、参加者が求める情報を提供する事に努め、出来る限り拘束時間を短くするように努めた。また出願確度の高い参加者の多い春にイベントオープンキャンパスを実施するなどして競合校よりも早期での接触を図った。

### (エ) WEB 広告による来校・認知拡大

GoogleやInstagramによる広告をオープンキャンパス参加者増加、認知拡大目的で配信した。来年度は通年で一貫した広告を継続し、切れ間の無い広報を展開する。

### (オ) SNS による情報発信

LINEを個別対応ツール、Instagramを認知拡大ツールとして活用した。Instagramも学校の様子を中心に現在週1回投稿。次年度は①在学生紹介。②卒業生動向。③周辺のお店情報など、閲覧者が求める情報を更に発信していく。

### (カ) 進学相談会

全11回の進学相談会に参加し、参加者総数は133名であった。オープンキャンパスへの導線としての効果も低かった為、来年度はより会場を選定して早期接触→LINEの繋がり確保→継続的なアプローチが可能となるよう、1・2年生中心の体験を重視したブースに多く参加していく。

### (キ) 令和7年度入試における特待制度の導入

3年間最大60万円授業料減免が可能なさぼ特(札幌医療リハビリ専門学校特待制度)を導入した。出願のきっかけになるだけでなく、在校中の勉強の励みにもなり、退学防止にもつながっていくのではないかと考えられる。

### (ク) 学校の魅力化・他校との差別化推進

他校との差別化・魅力化を図るため、①JSSR認定トレーナー資格取得 ②初級パラスポーツ指導員の資格取得、③当校独自の入学前・後教育プログラムの導入により学力低位層への対応などを推進した。

#### (ケ) 学納金等

学納金については当面現状のままとし、新型コロナウイルスによる経済的に困窮した学生へは納入期日の延納を受付するなど対応した。また、令和3年度から本学園独自の修学支援制度を導入し、経済的に困窮している、学生に対して令和6年度は1年生8名、2年生9名、3年生11名、4年生2名計30名に適応した。今後も経済的に困窮している学生支援を継続した。

### (3) 就職状況

#### ア 第一工科大学

預かった学生を「社会に送り出す」ことが自分たちの責務であることを自覚し就職指導に取り組んだ。両キャンパスともに社会動向を注視して早期学年からのキャリア教育（企業勉強会、オープンカンパニー参加）を展開できた。

鹿児島キャンパスの卒業生217名の中で、就職希望者169名のうち168名が就職内定（進学・自営業・留学・開業等含む）を得て卒業した。就職率は99.4%であった。東京上野キャンパスは、就職希望者52名のうち48名が就職内定（進学・自営業・留学・開業等含む）を得て、就職率は91.3%であった。プライム市場（旧一部）上場企業への就職は、両キャンパス合わせて16社、就職者は17名で就職率は7.8%であった。一方、鹿児島県内の就職率は、16.7%であった。

両キャンパスの更なる向上のため、キャリア教育の進展、将来を見据えた就職先の開拓・維持を図っていかなければならない。

#### (ア) 鹿児島キャンパス

以下の具体的な就職支援活動を実施した。

- a 学内企業説明会・選考会：20社（昨年度比：66.6%）
- b 就職講座支援（3年生）：6コマ（キャリア教育：全15コマ）
- c 地域企業による職業勉強会
- d 就職講座必修単位制に伴う部外講師依頼（2年生キャリア講座の開始）
- e 無償公務員講座の開講
- f インターンシップ受入企業との調整及び学生の参加に関する支援
- g 履歴書作成支援・面談対策支援・会社見学・現場見学への引率
- h 年度末のお礼・年度初めのあいさつと求人依頼を1,000社に送付完了
- i 新規開拓（外国人留学生採用企業）
- j 企業推薦枠の締結と継続
- k 既卒者への再就職支援

(イ) 東京上野キャンパス

2号館1階キャリアサポートセンターを拠点として、以下の具体的な就職支援活動を実施した。

- a キャリアサポートセンターにおいて就職情報（就職フェア・インターンシップ・企業見学・企業ガイダンス、合同就職面接会等）の提供・進路相談等を実施した。
- b 専任の教職員が企業開拓し、求人票の獲得に努めた。
  - (a) 新規開拓（外国人留学生採用企業）：50社
  - (b) 求人票（外国人留学生募集（既企業））掲示：約250社
- c 学内企業説明会：25社
- d 就職講座支援（3年生）：東京外国人雇用サービスセンター、マイナビ社、リクルート社、(株)アクセスネクステージ、(株)AKI、ジールコミュニケーションズ、トランスビジョン(株)、(株)グリーンウオーターズ各種企業による就活指導
- e インターンシップ促進（3年生）：東京都インターンシップ、企業インターンシップ
- f 人材紹介会社の就職個別支援サービスへのつなぎ
- g 東京外国人雇用センター（ハローワーク）による学内個別相談

(ウ) キャンパス別就職率（令和8年3月31日現在）

区 分	就職希望者比	卒業生比 (卒業生数－進学者数)	進学者数 (名)
鹿児島キャンパス	99.4% (168/169)	95.3% (207/217)	10
東京上野キャンパス	91.3% (48/52)	95.8% (69/72)	3

イ 第一幼児教育短期大学

全 般

就職率100%を目標に掲げ、前年度卒業生の就職先訪問ならびに新規開拓を精力的に実施した。令和8年3月卒業生68名中、学校に就職紹介及び支援を依頼した卒業生66名中64名が保育士資格・幼稚園教諭Ⅱ種免許状を活用した職場を希望し、専門職先（保育園、幼稚園、施設等）から内定を受けた。他2名は資格・免許と関連しない職種より内定を受け、19年連続100%を達成した。

ウ 鹿児島第一中学校・高等学校

令和7年度卒業生の中から1名が就職（劇団所属）。

エ 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

(ア) 就職支援

a 求人開拓

令和7年度末、求人件数は9,410件、卒業生105名に対する有効求人倍率は89.6倍となった。

学科	卒業生数	求人数	有効求人倍率
理学療法学科	28	2,856	102.0
作業療法学科	24	2,749	114.5
言語聴覚学科	13	1,485	114.2
柔道整復学科	27	1,154	42.7
はり・きゅう学科	13	1,166	89.7
合計	105	9,410	89.6

b 就職説明会の開催

理学療法学科、作業療法学科及び言語聴覚学科の合同就職説明会並びに柔道整復学科及びはり・きゅう学科の合同就職説明会を開催し、企業や病院等の施設から来校され、求人側と学生とのマッチングを図った。

県外や離島地域等、一部、遠方からの参加者についてはリモート形式も併用する形で実施した。

(イ) 就職実績

学科名	卒業生	就職		アルバイト等	その他(聴講生)(就活中)
		正規採用	助手等		
理学療法学科	28	26	0	1	1
作業療法学科	24	21	0	0	3
言語聴覚学科	13	11	0	0	2
柔道整復学科	27	23	0	0	4
はり・きゅう学科	13	12	0	0	1
合計	105	93	0	1	11

オ 札幌医療リハビリ専門学校

(ア) 新卒生

卒業生60名中、国家試験合格の就職希望者全員が病院施設等への就職内定をした。国試不合格者3名については、国家試験合格指導を継続する。

(イ) 就職活動支援

就職活動支援については、例年2回実施している校内就職合同説明会を、昨年度に引き続きリモート（Zoom ミーティング）形式にて実施した。

次年度については、対面とリモートを併用したハイブリッド形式での開

催とし、地方医療機関への就職支援の強化を図っていく。

求人情報提供についても、現行の学校 HP 掲載等のほか、新規に求人管理サイトを利用し学生が求人確認、検索が容易にしやすいようにする。

(ウ) 求人数について

理学療法士、作業療法士ともに新型コロナウイルス感染症拡大の影響からか、これまで高い求人倍率（20～30倍）であったが令和2年度からは降下傾向にあり、特に札幌市内の求人数は昨年度から減少している状況が続いているため、就職活動の開始時期を、前年度よりも早期に学生に取り組むように個別の指導を強化する。

(4) 外部資金の獲得等

ア 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金

:約1,298万円)

研究代表者	研究種目	研究テーマ	資金 (万円)
高島一郎	基盤研究 (B)	心拍が刻む感受性の窓:感性情報処理の神経基盤	221
渋沢良太	基盤研究 (C)	肉用牛の発情・転倒検知を高精度化する人間-AI 協調型牛群管理手法の開発	52
木村匡志	基盤研究 (C)	一般相対性理論を超える重力理論におけるブラックホール	78
ローズ平田昌子	基盤研究 (C)	アイトラッキングと脳波解析による非漢字圏日本語学習者の漢字認知過程の解明	130
竹下康文	若手研究	臨床歩行動画から関節負荷・筋活動を解析するシステムの開発	13
竹下康文	研究成果公開 発表 (B)	AI を使って自分のランニングフォームを分析してみよう!	49
本田泰寛	基盤研究 (C)	古構造デジタル標本の作製及び活用法の確立に向けた研究	234
松田翔太	基盤研究 (C)	フットケア支援にむけた糖尿病患者の足部病変判別システムの開発	208
寄田明宏	若手研究	ストレス対処能力の評価によるストレスマネジメントロボットの開発	91
萩原和孝	基盤研究 (C) (分担)	安全配慮義務高度化に対応した学校安全の研究—判決書教材によるプログラム開発	13
渋沢良太	基盤研究 (C)	「普段使いのデジタル」で自己選択・決	13

	(分担)	定を行動に移せるスポーツ支援システムの開発	
竹下康文	基盤研究 (C) (分担)	フットケア支援にむけた糖尿病患者の足部病変判別システムの開発	6.5
内村俊二	基盤研究 (C) (分担)	安全性と作業効率を考慮した旋回クレーン地切り時姿勢制御システムの開発	33.8
高島一郎	基盤研究 (C) (分担)	アイトラッキングと脳波解析による非漢字圏日本語学習者の漢字認知過程の解明	13
高島一郎	挑戦的研究 (萌芽) (分担)	興奮/抑制バランスの波から探る「意識」のスイッチ	39
高島一郎	基盤研究 (A) (分担)	包括的全脳光計測と E/I 不均衡動物で捉える動的サリエント(顕著性)ネットワーク機能	104

イ その他の助成事業 (約 6 3 5 万円)

団体名	研究者名	研究開発テーマ	資金 (万円)
ダイキョーニシカワ (株)	山本淳二 野田晋二	ドローン (VTOL) 設計・製造に関する研究・教育の推進	25
(一社)九州地域づくり 協会	本田泰寛	土木科高校生の課題研究における伝統的治水技術・霞堤に関する実践的学習	30
(一社) カザミドリ	西嶋啓一郎	MINOTE+ (ミノテプラス) に関する研究、実験、提案・助言	30
(公財)JKA	竹下康文	AIによる動画像解析を用いた頭部外傷を予防のための研究	500
丸和工業(株)	宮部瑛里	鹿児島県及び周辺の歴史的建造物の調査	30
(株)小西美術工芸社	宮部瑛里	研究寄附金として	20

(5) 人事計画と人件費削減

教員の高齢化の是正及び教員の養成を考慮し、就業規則に基づき定年制を遵

守するも、理事長が特に必要と認める者については、勤務継続を認めた。また、直接教育に携わらない部門（警備・学園内整備等）は、アウトソーシング又はパートタイム労働者を活用した。非常勤講師への過度の依存を避け、専任教員を活用して講師料の削減を図った。

経常収入に対する人件費支出割合は、目標の50%以下を達成したが、教職員の賞与50%減額を継続した。

(6) 経費削減について（人件費を除く。）

施設・設備については、補助金対象事業を有効に活用し整備を図るとともに、広報費は、費用対効果の検証による効果的な経費執行、旅費は、特割・パック料金等の利用による経費削減、物品購入に際しては、一括購入や3社見積等の価格競争による経済的な調達に努め、経費の削減を図った。

(7) 施設・設備等整備

ア 耐震化計画として、令和7年度耐震改築工事(複数年度(7年度～8年度)に渡る工事)に於いて、7年度工事予定である1・5号館の解体を終了し、新棟建設の為に杭打ちを実施した。

なお、令和10年度までに耐震化率100%になるよう、国の補助金を活用しつつ学園の財務状況を勘案して計画的に進めていく。

イ 経産省の補助金を活用し、鹿児島第一高等学校、鹿児島第一医療リハビリ専門学校の高齢化・作動不良の空調機を更新した。

別紙 令和7年度施設・設備等整備計画 実施状況（主な実績）

(8) 財務状況

学生募集に努力したが、学生数は前年度に比し減少した。また、支出については、賞与減額の継続及び段階的な施設・設備の整備により支出削減を図った。収入減に伴う支出削減により収支バランスの安定化を維持する。

### III 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
固定資産	13,863,426	13,628,727	13,459,919	14,710,448	14,910,665
流動資産	796,337	985,931	1,051,145	1,300,156	1,179,492
資産の部合計	14,659,763	14,614,658	14,511,064	16,010,604	16,090,156
固定負債	2,032,465	1,868,333	1,714,246	3,011,353	3,212,609
流動負債	1,056,630	1,090,867	1,079,165	1,095,620	1,095,276

負債の部合計	3,089,095	2,959,200	2,793,411	4,106,974	4,307,885
基本金	23,891,742	24,021,597	24,224,623	25,963,808	24,577,411
繰越収支差額	△12,321,075	△12,366,138	△12,506,970	△14,060,178	△12,795,140
純資産の部合計	11,570,668	11,655,459	11,717,653	11,903,630	11,782,271
負債及び純資産の部合計	14,659,763	14,614,658	14,511,064	16,010,604	16,090,156

イ) 財務比率の経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和6年度
運用資産余裕比率	△0.3年	△0.2年	△0.2年	△0.3年	△0.5年
流動比率	75.4%	90.4%	97.4%	118.7%	107.7%
総負債比率	21.1%	20.2%	19.3%	25.7%	26.8%
前受金保有率	135.4%	180.3%	189.4%	197.6%	197.0%
基本金比率	93.4%	94.1%	94.7%	98.8%	91.8%
積立率	5.8%	7.4%	7.7%	14.9%	8.8%

② 資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金収入	2,537,926	2,566,934	2,556,343	2,479,621	2,511,483
手数料収入	25,252	24,596	28,181	30,253	33,000
寄付金収入	0	12,000	13,200	64,674	89,633
補助金収入	425,906	443,933	446,474	565,086	669,851
資産売却収入	670,889	0	280	0	510
付随事業・収益事業収入	135,618	156,808	163,145	144,873	147,793
受取利息・配当金収入	45	34	28	550	2,142
雑収入	23,893	54,576	69,577	76,748	27,660
借入金等収入	0	0	727,454	1,464,000	367,000
前受金収入	517,300	499,599	504,802	526,257	546,318
その他の収入	713,578	850,975	818,863	778,408	996,988
資金収入調整勘定	△1,111,971	△598,984	△590,304	△757,795	△624,800
前年度繰越支払資金	451,700	700,281	900,846	956,132	1,040,056
収入の部合計	4,390,136	4,710,751	5,638,889	6,328,807	5,807,634

支出の部	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	1,665,130	1,665,290	1,682,846	1,720,031	1,678,902
教育研究経費支出	686,773	706,854	722,212	663,847	1,013,788
管理経費支出	306,884	358,978	344,306	345,477	368,131
借入金等利息支出	40,896	37,920	28,119	35,442	53,480
借入金等返済支出	150,000	144,156	852,967	148,492	254,920
施設関係支出	22,589	104,203	169,199	645,293	1,313,239
設備関係支出	163,951	67,288	63,103	98,162	189,252
資産運用支出	5	5	4	868,304	△868,295
その他の支出	775,727	826,369	943,783	901,972	923,037
資金支出調整勘定	△122,100	△101,158	△123,781	△138,267	△194,972
翌年度繰越支払資金	700,281	900,846	956,132	1,040,056	1,076,152
支出の部合計	4,390,136	4,710,751	5,638,889	6,328,807	5,807,634

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	3,122,520	3,233,276	3,266,834	3,252,939	3,413,803
	教育活動資金支出計	2,658,787	2,731,123	2,749,363	2,729,355	3,057,919
	差引	463,733	502,153	517,471	523,584	355,884
	調整勘定等	△115,575	△12,941	△6,195	△165,226	206,791
	教育活動資金収支差額	348,158	489,212	511,276	358,358	562,675
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	696,964	25,525	10,365	108,317	65,894
	施設整備等活動資金支出計	186,540	171,491	232,302	1,611,754	634,191
	差引	510,424	△145,966	△221,937	△1,503,438	△568,297
	調整勘定等	△450,000	0	0	0	0
	施設整備等活動資金収支差額	60,424	△145,966	△221,937	△1,503,438	△568,297
	小計(教育活動資金収支差額)	408,582	343,246	289,339	△1,145,080	△5,622

支差額+施設整備等 活動資金収支差額)						
その他の活動による資金収支						
その他の活動資 金収入計	635,581	762,303	1,468,714	2,154,597	1,110,701	
その他の活動資 金支出計	793,357	903,282	1,681,562	878,366	1,081,566	
差引	△157,776	△140,979	△212,848	1,276,231	29,135	
調整勘定等	△2,225	△1,702	△21,205	△47,227	12,582	
その他の活動資 金収支差額	△160,001	△142,681	△234,053	1,229,004	41,717	
支払資金の増減額(小 計+その他の活動資 金収支差額)	248,581	200,565	55,286	83,924	36,095	
前年度繰越支払資 金	451,700	700,281	900,846	956,132	1,040,056	
翌年度繰越支払資 金	700,281	900,846	956,132	1,040,056	1,076,152	

ウ) 財務比率の経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
教育活動資金収支 差額比率	11.1%	15.1%	15.7%	11.0%	16.5%

③ 事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較 (単位：千円)

科 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業活動収入の部					
学生生徒等納付金	2,537,926	2,566,934	2,556,343	2,749,621	2,511,483
手数料	25,252	24,596	28,181	30,253	33,000
寄付金	0	12,000	13,200	64,674	77,833
経常費等補助金	399,831	418,408	436,389	456,770	616,267
付随事業収入	135,618	156,808	163,145	144,873	147,793
雑収入	46,603	91,482	69,763	102,067	64,922
教育活動収入計	3,145,230	3,270,228	3,267,021	3,278,258	3,451,298
事業活動支出の部					
人件費	1,698,493	1,698,095	1,701,386	1,742,867	1,728,050

	教育研究経費	1,000,857	1,036,512	1,057,657	999,102	1,208,121
	管理経費	379,140	431,867	417,314	421,030	447,138
	徴収不能額等	657	3,247	3,815	153	36
	教育活動支出計	3,079,146	3,169,721	3,180,172	3,163,152	3,383,345
	教育活動収支差額	60,084	100,507	86,849	115,106	67,953
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	45	34	28	550	2,142
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	45	34	28	550	2,142
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	40,896	37,920	28,119	35,442	53,480
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	40,896	37,920	28,119	35,442	53,480
	教育活動外収支差額	△40,851	△37,886	△28,091	△34,891	△51,338
経常収支差額		25,233	62,621	58,758	80,214	16,615
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	123,689	0	280	0	81,591
	その他の特別収入	27,372	26,805	12,425	109,466	66,846
	特別収入計	151,062	26,805	12,705	109,466	148,437
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	7,716	4,635	9,269	603	240,568
	その他の特別支出	0	0	0	0	45,843
	特別支出計	7,716	4,635	9,269	603	286,411
	特別収支差額	143,345	22,169	3,436	108,863	△137,974
基本金組入前当年度収支差額		187,578	84,791	62,194	189,077	△121,359
基本金組入額合計		△30,961	△140,634	△206,604	△1,746,434	△37,957
当年度収支差額		137,617	△55,843	△147,509	△1,557,357	△159,316
前年度繰越収支差額		△13,091,206	△12,321,075	△2,366,138	△12,510,069	△14,060,178
基本金取崩額		632,515	10,780	3,578	7,249	1,424,354
翌年度繰越収支差額		△12,321,075	△12,366,138	△2,510,069	△14,060,178	△12,795,140
(参考)						
事業活動収入計		3,296,337	3,297,067	3,279,754	3,388,274	3,601,877

事業活動支出計	3,127,759	3,212,276	3,217,560	3,199,197	3,723,236
---------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

イ) 財務比率の経年比較

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費比率	54.0%	51.9%	52.1%	53.2%	50.0%
教育研究経費比率	31.8%	31.7%	32.4%	30.5%	35.0%
管理経費比率	12.1%	13.2%	12.8%	12.8%	12.9%
事業活動収支差額比率	5.1%	2.6%	1.9%	5.6%	△3.4%
学生生徒等納付金比率	80.7%	78.5%	78.2%	75.6%	72.7%
経常収支差額比率	0.8%	1.9%	1.7%	2.4%	0.5%

(2) その他

① 借入金の状況

(単位:千円)

借入先	期末残高	利率	返済期限	摘要
宮崎太陽銀行	0	2.125%	令和8年2月28日	学生寮建築
宮崎太陽銀行	341,616	1.975%	令和20年9月30日	短大・幼稚園舎 建築
三菱UFJ銀行	657,129	1.5%+変動	令和30年10月31日	
三菱UFJ銀行(A)	1,268,000	1.3%+変動	令和26年9月29日	新校舎建設
三菱UFJ銀行(B)	171,000	1.3%+変動		校舎建替
三菱UFJ銀行(C)	267,804	1.3%+変動		耐震補強

② 補助金の状況

国庫補助金、地方公共団体補助金、私立学校運営補助金、施設型給付費収入、入学金軽減費補助金、授業料軽減費補助金を受けている。

③ 学校法人間の財務取引

(単位:千円)

学校法人名	取引の内容	取引金額
都築学園	土地の賃貸	4, 116
	土地、建物の賃借	17, 046
	当学園が負担すべき分担金	14, 678
都築育英学園	旅費立替金の回収	79
	土地の賃貸	2, 179
	当学園が負担すべき分担金	11, 393

都築第一学園	当学園が負担すべき分担金	4, 502
--------	--------------	--------

### (3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

中期計画の重点事項である学生募集及び中途退学者の防止について、目標達成はならなかったが、学生数については若干増加しており増収になっている。支出については、経費支出2割削減策を各学校が実行したため、支出抑制もあり、経常収支は5年連続黒字を計上している。

令和8年度の学生数は令和7年度に比して大幅に増加しているが、令和8年度も支出抑制を継続するとともに、新築工事及び老朽施設の改修工事を計画的に推進するためにも運用資産を確保する必要がある。

財務状況の改善には、引き続き教育の質の向上に努めるとともに、中期計画の重要事項である学生募集及び中途退学者の防止について更なる努力を傾注する必要がある。また、補助金対象事業を有効に活用し、老朽化した施設・設備の整備を推進する。

## IV その他

### 1 第一工科大学

#### (1) 早期支援システムの確立

授業出席状況の把握及び情報共有を徹底し、早期段階での学生支援を実施する。

ア 授業担当教員は、教育内容及び授業方法の継続的な改善を図るとともに、出席状況の把握及び学生へ指導を徹底した。

イ クラスアドバイザー及び教学課は、各関係部門と連携し、必要に応じて学生及び保護者への連絡及び面談を実施する。

#### (2) カウンセリング体制の充実

ア 専門カウンセラーとの連携を強化し、学生が安心して相談できる環境の整備を推進する。また、定期的に情報共有を行い、学生支援体制の充実を図った。

イ オリエンテーション及び本学ホームページ等を通じて、カウンセリング制度の周知を図り利用促進に努めた。

#### (3) クラスアドバイザー制度の強化

ア 各学科にクラスアドバイザー及び留学生クラスアドバイザーを配置し、きめ細やかな学生支援を実施した。

イ オフィスアワーを活用し、学生が教員に相談しやすい環境を整備した。

ウ 鹿児島中央キャンパスの設計においても、女子学生専用スペース「コルネラウンジ」を活用し、女子学生への支援体制の充実を図った。

#### (4) 経済的支援

ア 本学独自の授業料免除制度等の奨学制度を継続して実施した。

イ 学費の延納及び分納制度の適切な運用により、経済的理由による退学の防止

に努めたる。

ウ 外部奨学制度の周知及び利用支援を積極的に行う。

#### (5) 中途退学者の防止

中途退学者の増加は、経営資源等に大きく影響することから、学内組織連携型の学生支援策を行い、中途退学者の防止を図った。

中途退学者の防止は学生支援及び大学運営の両面において重要な課題であることから、関係部門が連携した総合的な学生支援体制を構築し中途退学者の防止に努めた。

### 2 第一幼児教育短期大学

- (1) 文部科学省の施設整備費補助金を活用して、ハイフレックス型授業の制限の撤廃を目指し、インターネット接続が容易にできる環境を整え、学内外問わず学ぶことのできる施設整備や利便性の高い教育環境の最適化を引き続き継続する（3F/4F部分WiFi機器設置）。
- (2) 9月にハイフレックスで保護者連絡会を実施し、学校の近況の説明、保護者との意見交換、クラスアドバイザー面談等を行った。
- (3) 安全管理の面から、学生に対する「防災教育」、「防災訓練」を実施した。
- (4) 学友会を中心にお誕生日会や季節の行事イベント、ゲーム&スポーツ大会、短大のみの学園祭として「ようたん祭り」等を実施し、1年生と2年生の交流の場を多く設けた。

### 3 鹿児島第一中学・高等学校

- (1) 危機管理マニュアルを整備し火災、地震・津波、スクールバス事故、不審者対応、盗難、新型コロナウイルス、新たな危機事象への対応等の諸計画を整備し必要な教育・訓練を実施した。特に、教育用支援ソフト「Classi」を活用し、不測事態への対応について学校・保護者間において連絡体制を確立した。
- (2) 「いじめ防止対策委員会」「適応対策委員会」「部活動活動方針」を組織的に取り組み、信頼される学校づくりを目指した。
- (3) 中学校では、総合的な学習の時間に「PBL（Problem-based learning（課題解決型学習）」や「SDGs（Sustainable Development Goals）持続可能な開発目標）」を設け、学んだ。高校では、総合的な探究の時間に「環霧島学」を設け、地域の方々に講師として協力を頂き、郷土の良さを学んだ。新大学入試制度に向けてのポートフォリオの蓄積も進めた。
- (4) 新型コロナウイルス等の感染症対策は保健部が主導し、現状認識と今後の鹿児島地区の対応に関し情報委員会を通じて他の学校等と情報共有を図りつつ、校内、寮、スクールバスに及ぶマスク、消毒、検温を含む健康観察等の対策を中高教職員に対し周知徹底できた。

(5) 遠隔授業については、感染症による休校期間中に Classi や YouTube を活用して実施した。Classi で課題を指示し、授業動画の URL を伝えた。また、メッセージ機能を利用して、質問の受け答えなどを行った。

撮影した授業動画を YouTube で流すだけではどうしても一方的な授業になるので、Zoom を活用して双方向の授業を行った教員もいた。この方法は長期療養中の生徒に対しても非常に有益であったため、今後も継続する。

様々な形態での遠隔授業を実施することにより、多くの問題点が発生したものの、Classi、YouTube、Zoom それぞれにメリット、デメリットがあるので、それらの特徴を十分に理解し、今後も問題点の解決を図り有効活用していく。さらには、Google Workspace for Education を導入し、教室に入るのが困難な生徒に向けての授業配信に取りかかりたい。

#### 4 鹿児島第一幼稚園

子ども・子育て新制度の施設型給付幼稚園として毎月国と自治体から給付を受けており、安定的な運営につながっている。

毎月の申請等に関して、遅漏なく処置を進めていく必要があるため、学園内の担当部署や自治体の担当機関と適切に連携を図り対処するように心がけた。また、給食用食器等の運搬等に際し、衛生面を考慮し、運搬用軽ワゴン車の導入を実施した。今後も通園バスを適切に使用することにより、引き続き安全な運行を実現していきたい。

#### 5 鹿児島第一医療リハビリ専門学校

##### (1) 学校運営の改善等

###### ア 教職員会議

全教職員参加の「教職員会議」を開催し、本年度は学校の現状及び令和7年度事業計画等について認識の統一を図った。

各学科や委員会による令和6年度の目標に対する成果及び主要な取組（国家試験結果の分析や募集広報、中退防止策）について意見交換を実施した。

###### イ 学校関係者評価

学校後援会の代議員による学校関係者評価を行い、学校運営全般について評価して頂くとともに、学校運営上の改善意見を伺った。その評価結果については学校ホームページに掲載した。

###### ウ 県学事法制課による運営状況調査に基づく是正事項

令和7年1月に県学事法制課による現況調査を実施した。是正事項として学校保健安全法施行規則に基づく学生の健康診断を「当該学年の始期から起算して三月以内」に実施するよう指導を受けた。新型コロナ期間中に学外での臨床実習中の3年生の実施が遅れていたことに対する指摘であった。令和7年度は学外臨床実習開始前の4月初めに3年生及び5月に1・

2年生を対象に実施した。

## (2) 各種感染症対策

新型コロナウイルスや季節性のインフルエンザ等の流行に伴う学校の対応・措置事項について具体化するとともに、学生及び保護者に周知を図るとともに、教職員についても病休措置の手続き等を周知した。

学校におけるマスクの着用等については規制が緩和されているが、引き続きマスクの着用が推奨される病院等の医療機関において、学生の臨床実習や非常勤講師の講義等で人的交流があるため、引き続き校内においては学生・教職員はマスクの着用を励行している。

## 6 札幌医療リハビリ専門学校

### (1) 学生支援

#### ア 奨学金等支援

令和7年度の奨学金受給者は65名であり、41.4%の学生が受給した。

令和7年度も経済的支援者が更に増えると考えられ、経済的に厳しい学生が増加する状況に変化はないため、日本学生支援機構奨学金及び各種ローンの紹介など、修学支援制度（授業料等減免）支援体制を適切に実施する。

#### イ 証明書等の発行

各種証明書等の発行は、受付3日後交付を原則としているが、急ぐ場合は即日交付する等の便宜を図っている。

#### ウ 健康管理

(ア) 定期健康診断は、例年の4月に実施し学生の健康状態を把握する事が出来た。

(イ) 12月にかけてインフルエンザ対策として、後援会の支援を得て後援会の支援を得て123名の学生（全体の約87.2%）がワクチン接種を実施した。

#### エ 福利厚生

学生のメンタルヘルスマネジメントの重要性が増えている状況であり、修学意欲を持続させるためにも、専門的な知識を有するスクールカウンセラーを配置し、学生にスクールカウンセラーの周知を行い、定期的に便りを発行するなど、学生個別の悩み相談を実施し学生支援班との連携体制を確立した。

### (2) その他の施策

#### ア 通信制高等学校との提携

学校法人佐藤学園のスクーリングのための教室として、スクーリング時に本校教室で学ぶ生徒さんへ、本校の魅力を感じてもらい、将来の進路選択で選んでもらえるように説明会を実施した。また、同グループ校のヒューマンキャンパス札幌校へ出前授業の依頼があるなど、さらに高校との提携を密接

におこない連携を図る。

イ 学校評価、自己点検評価

毎年1月に自己評価を実施し、2月には外部有識者による学校関係者評価委員会を開催した。外部評価委員からの意見を踏まえ、次年度以降の学校運営および教育活動の改善に反映していく。

ウ 北海道私立専修学校各種学校連合会事業として、中学生の職業体験講座を開催し、同会の次世代人材職業体験推進事業を実施し、中学生56名に理学療法士・作業療法士について授業を行い療法士の魅力をアピールした。

エ 道内のテレビラジオ局であるSTVの「お天気カメラ」の設置により、テレビ画像として使用時に画像内に本校名がテロップ(字幕)で紹介されている。

オ 地域との連携

学校の所在する地区である鉄西地区の福祉のまちづくり推進委員会に教員が所属し、年に1回行われる健康フェアや春のウォーキングイベントには学生もボランティアとして参加して地域住民の健康意識の向上に関わった。特に地区役員からも学生が来ることがイベントの活性化につながるため今後も継続してほしいという声があった。また、札幌市の介護予防事業「すこやか倶楽部」の講師・補助に年3回教員が関わった。

令和7年度施設・設備等整備計画

別紙  
(単位：千円)

部 門	支出科目	件 名	金 額	執行額	備 考		
法人	設備関係	PC更新	600	0			
		レーザープリンター	0	78			
		耐火金庫	0	124			
		コーナーフラグ一式	0	495			
		サッカーゴール	0	539			
		校用車リース	0	5,518			
		理事長車リース	0	5,478			
	合 計	600	12,232				
鹿兒島キャンパス	施設関係	第一学生寮女子職員トイレ新設工事	1,500	0			
		4号館1Fトイレ改修工事	2,000	0			
		寮事務室空調機更新	900	0			
		新キャンパス改修工事	280,000	180,000			
		第二学生寮防水工事	12,000	16,500			
		第一学生寮防水工事	13,000	0			
		第1グラウンド改修工事	160,000	157,300			
		校名サイン新設工事	0	2,330			
		LEDビジョン設置工事	0	6,600			
		塔屋サイン照明工事	0	1,048			
		空調機買取	0	217			
		エアコン移設工事	0	257			
		第二学生寮玄関取替工事	0	550			
		渡り廊下防水工事	0	825			
		1・5号館合築設計費(耐震設計)	30,000	29,700			
		小 計	499,400	395,327			
			FTD(フライト訓練装置)	27,500	0		
			ドローン	50	0		
			ドローンバッテリー	30	0		
			3Dプリンター	165	0		
			ゼオライト	400	427		
			オートベル	200	167		
			タブレット端末	200	0		
			VRゴーグル	255	0		
			伸縮式バスケットゴール	9,757	0		
			サーバリブレイス	24,000	0		
			鹿兒島中央キャンパス関連備品	19,460	21,714	新キャンパス用	
			学生居室空調機更新	4,500	5,500		
			第一学生寮食堂空調機更新	2,800	0		
			非常用予備発電装置バッテリー更新	0	205	新キャンパス用	
			AED	495	495		
			ロビー空調機更新	1,400	0		
			寮生管理システム用端末	250	0		
			体育館浄化槽制御盤移設工事	467	0	1号館解体に伴う移設	
			火災警報受信機移設工事	7,300	5,720	1号館解体に伴う移設	
			非常用放送設備移設工事	1,700	1,683	1号館解体に伴う移設	
			機械警備移設工事	290	0	1号館解体に伴う移設	
			内線電話移設工事	826	0	1号館解体に伴う移設	
			内線電話増設工事	250	0	1号館解体に伴う増設	
			空調機取外工事	900	0	1号館解体に伴う取外し	
			入口ホール空調機更新	860	0	新キャンパス用	
			スクールバス更新	22,748	26,508	リース	
			衛星画像(可視画像)	300	0		
			衛星画像(SAR画像)	300	0		
			衛星画像解析ソフト	200	0		
			寮生管理システム	3,500	0		
			ノートパソコンリース	0	24,394		
			サッカーゴール	0	924		
			バックパネル	0	105		
			LEDビジョン設置工事	0	1,210	新キャンパス用	
			複合機リース	0	700		
			ガス給湯器更新	0	477		
			業務用テーブル型冷蔵庫	0	270		
			防犯設備設置工事	0	322	新キャンパス用	
			パソコンリース	0	33,706	新キャンパス用	
			ネットワーク機器一式	0	12,342	新キャンパス用	
			図書	495	371		
			小 計	131,598	137,240		
			鹿兒島キャンパス 合 計	630,998	532,567		
		東京上野キャンパス	施設関係	本館1Fトイレ改修工事	1,500	1,252	
				本館エレベーター改修工事	19,000	9,570	
				本館・2号館空調機更新	46,000	1,870	省エネ投資促進支援補助金対象事業
				屋上看板修繕工事	3,500	3,199	
				小 計	70,000	15,891	
			設備関係	教場用パソコン	1,300	1,192	
				複合機更新	925	911	5年リース契約
				プロジェクター	800	0	
				教場用椅子	700	591	
				AED	300	272	
				PC更新	880	0	
				電話更新	1,550	1,927	5年リース契約
				加圧給水ポンプユニット交換	0	1,760	
				大型モニター	0	224	
				テレビ及びテレビスタンド	0	261	
				図書	300	84	
				小 計	6,755	7,222	
				東京上野キャンパス 合 計	76,755	23,113	
				大学施設関係 合 計	569,400	411,218	
		大学設備関係 合 計	138,353	144,462			
		合 計	707,753	555,680			

第一幼児教育 短期大学	施設関係	屋上防水トップコート塗替え工事	1,738	0	
		小 計	1,738	0	
	設備関係	ミニセグウェイ	36	0	
		メガスライダー	32	0	
		エバーマット	142	0	
		ジップライン9.5フィート	24	0	
		インフレーターブルウォータースライド	364	0	
		6.5型ディスプレイ	0	155	
		図書	60	41	
		小 計	658	196	
	合 計	2,396	196		
高等学校 鹿児島第一	施設関係	渡り廊下修繕工事	21,450	11,750	
		教室等空調機更新	13,500	13,480	省エネ投資促進支援補助金対象事業
		屋上漏水防止補修工事	0	220	
		女子更衣室棟設置工事	0	8,250	
		空調機買取	0	120	
		小 計	34,950	33,820	
	設備関係	生徒用机・椅子	825	0	一般補助対象
		電子黒板	709	0	一般補助対象
		教員用タブレット	865	0	
		I C T ルーム無線投影機	130	0	
		水平すだれ式波動実験器	139	121	
		防犯カメラ	99	0	
		図書	352	350	
		小 計	3,119	471	
	合 計	38,069	34,291		
中学校第一 鹿児島第一	施設関係	空調機買取	0	48	
		小 計	0	48	
	設備関係	生徒用机・椅子	924	1,463	
		中型バス	11,000	17,266	リース
		Chromebook	0	871	
		図書	385	383	
		小 計	12,309	19,983	
	合 計	12,309	20,031		
鹿児島第一幼稚園	設備関係	軽ワゴン車	700	454	
		ワイヤレスアンプ・マイク	0	212	
		総合遊具リース	0	3,300	
		合 計	700	3,966	
札幌医療リハビリ専門学校	設備関係	P C 更新	11,715	0	
		測定機能付自力運動訓練装置	1,265	925	
		吸引シュミレーター	0	428	
		100型電動スクリーン	0	287	
		Microsoftoffice365更新	457	0	
		学術雑誌検索ソフト	264	0	
		統計ソフト (SPSS)	21	0	
		業務用冷蔵庫	0	356	
		図書	103	0	
	合 計	13,825	1,996		
鹿児島第一医療リハビリ専門学校	施設関係	教室等空調機更新	15,100	12,402	省エネ投資促進支援補助金対象事業
		空調機買取	0	144	
		小 計	15,100	12,546	
	設備関係	超音波治療器	400	396	
		アネロイド血圧計	70	96	
		耳音響放射装置	4,257	4,257	
		上肢・下肢台	120	0	
		電動昇降ベッド	0	174	
		エコー画像診断器	970	0	
		P C リース	5,940	0	
		学生用椅子	401	399	
		レセプトシステム	594	594	
		図書	59	33	
	小 計	12,811	5,949		
	合 計	27,911	18,495		
施設関係 総計		621,188	457,632		
設備関係 総計		182,375	189,255		
総 計		803,563	646,887		